
関西大学体育会漕艇部

90 年のあゆみ

The 90th Anniversary
Kansai University Rowing Club

1923 ▶ 2013



関西大学体育会漕艇部 ・ 紫紺会

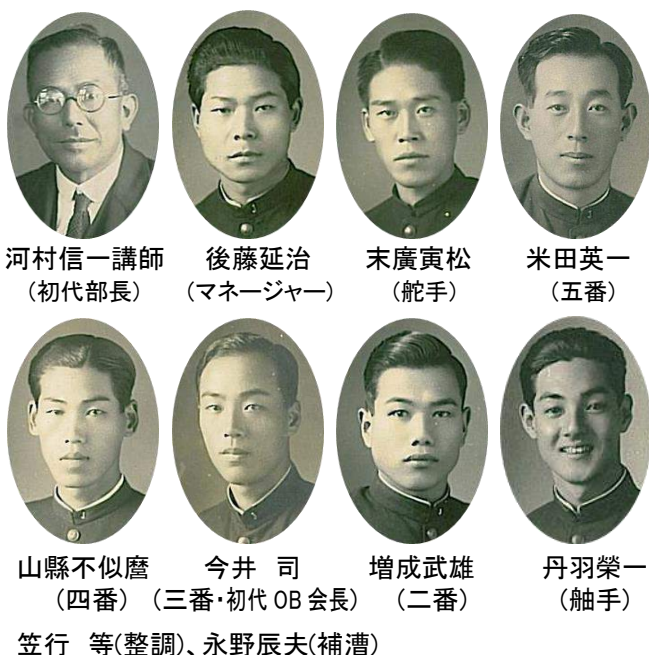
1 関西大学漕艇部の誕生 ～第一期黄金時代の幕開け～

(1) 大正 12 (1923) 年 活動開始、大正 15 年 創部

日本の大学におけるボートの歴史をたどると、明治 8(1875)年に英国人 W. ストレンジ氏が来日し、大学教員の傍ら隅田川で学生にローイングを教えたことに始まり、10 年頃大学南校（現東京大）が外国捕鯨船の搭載ボートを購入している。関西では 12 年頃から第三高等学校（現京都大）の学生が堂島川で漕ぎ始め、22 年に大阪商業学校（現大阪市大）が堂島川で、24 年に同志社英学校（現同志社大）が瀬田川で学内レガッタを開催している。29 年に大阪工業学校（現大阪大）で、36 年に神戸高等商業学校（現神戸大）で端艇部が創部された。大正 9 年には日本漕艇協会が創立され、関東を中心に学生選手権が開催された。他校の活躍を見るにつけ、水の都大阪で伝統を誇る関西大学に漕艇部がないのは遺憾であるとして、大正末期に創部の運びとなった。

関西大学漕艇部（当時は端艇部）が正式に関西大学学友会に認可されたのは、大正最後の年である 15 (1926) 年の 1 月 20 日である。それまで試合出場こそできなかったが、認可審査においては当然、事前の活動実績が問われるわけで、実際にはその 3 年前から大阪商科大（現大阪市大）や実業団の大丸にボートを借りて練習をしていた。創部メンバーは練習に加えて人材（部員、コーチ、顧問）探し、資金調達、艇庫や艇の確保、大学・学友会への申請手続等に奔走した。その多大な労力を伴う創部に向けた諸活動に深甚なる敬意を表し、大正 12 (1923) 年をいわば「関西大学漕艇部活動元年」と位置づけ、同年をもって関大ローイングの歴史の起点としている。その定義のもとで関大漕艇部では“SINCE 1923”というロゴをエンブレム等に使用している。なお、同年 9 月には関東大震災により 10 万 5 千人余が死亡又は行方不明、建物全壊が 10 万 9 千余棟、全焼が 21 万 2 千余棟という日本災害史上最大級の被害がもたらされ、東京大、東京商科大（現一橋大）等の艇庫がボートもろとも焼失し、10 月開催予定のインカレが中止となった。

文字どおりゼロから関大漕艇部を立ち上げた、創設者たちの在学時から卒業後に及ぶボートにかかる情熱、実行力なくしては、我が部の誕生・存続・発展はなかった。当時の O B 会活動に関する記録は残されていないが、創部とその後の部の運営に並々ならぬ苦労を味わったメンバーは、卒業後も現場指導、資金援助等、まさに物心両面に亘る支援を現役部員に施したことは想像に難くない。



【関西大学端艇部創部メンバー】

左:昭和 5 年及び 6 年『卒業アルバム』

右:大正 15 年 6 月 15 日付『千里山學報』



端艇部報

端艇部の創設——水都三人も呼び吾も許す浪速に於ける私學の權威たる我が關西大學の運動部に未だ端艇部の設置されざるは、自他共に遺憾の感があつたが、去る一月二十日、本學當局の賛同を得て、端艇部の創設を見た。爾來、霜氣膚に迫る冬日の短きをかこち、鴈月夢さ霞む春宵徒らに暮れ易きを嘆じ、淀の廻江に、堂島川の競漕に、學びの暇を盗みては部員は鐵腕を練つた。聲光は一朝にして得られるものではない、クラッチの音にも忍べるものの淡き悲愁は濃ふ、三月二十日より四月十八日迄の休日を利用して只管腕を練り技を磨いた部員の獲物は、雪に勝敗の跡のみでなく、實に鐵膚の輝やきその儘に、強く堅く、氣高く、にぶく輝やくスポーツマンシップではあるまいか。

(以下割愛)

始まりは「端艇部」だった——

創部当時の呼称は「端艇部」だった。『千里山學報』によると昭和 3 年 6 月 15 日号から「漕艇部」と記載されている。因みに、平成 25 年 8 月のインカレのフォア、エイト出漕クルーの 49 大学に関して各 HP で調べてみると、「端艇部」は一橋、慶応、龍谷等 7 大学(14%)、「ボート部」は京都、同志社、関学等 16 大学(33%)、「漕艇部」は東京、東北、早稲田等 26 大学(53%)に分かれ、「漕艇部」が多数派となる。

右:浪花節調の設立趣意書に先駆者としての気概が示されている。

＝大正 15 年 6 月 15 日付『千里山學報』



1923 (大正12年)

■ 本学初の女子学生 北村兼子入学

北村兼子は本学初の女子学生として1923年(大正12年)法学部法律学科に聴講生として入学。在学中に大阪朝日新聞に採用され、その後、ライター、国際ジャーナリスト、飛行士など、豊かな才能を発揮して活躍しました。



因みに、「関大漕艇部活動元年」の前年の大正11年は関大にとって、飛躍に向けた大きな節目であった。①千里山に学舎を竣成、②大学令による関西大学として認可され、法学部、商学部、大学予科を設置、③関大大学歌を制定している。また「活動元年」の大正12年には関大初の女子学生が入学し(写真上段左)、相撲部の竹田繁七(大正15年卒)が第5代学生横綱(同中)に、堺・大浜の全国学生相撲大会での応援(同右)が応援団の原点となり、翌年の組織編制に至っている。そして「創部」の大正15年には千里山大運動場が竣工し、第1回大学祭(下段右・中：銭湯から入手した墨を全身に塗って半裸で舞う南洋踊りが名物となる)を挙行政、水泳部が鳴門海峡横断の快挙(同左)を成し遂げている。

(2) 大正15年 初の対外試合

5月9日、創部以来初の対外試合となる、堂島川(渡辺橋—裁判所間)で行われた、フィックス(COX+6人漕ぎ固定席艇)による関西各大学高等専門学校端艇競漕大会において、大阪高工(現大阪大)に2カンパス差で敗れ2位に終わった。記念すべき初レースに黒星を喫したが、それ以後関大は破竹の連勝街道を突っ走るのである。

(3) 大正15年 初勝利

5月23日、創部以来2戦目にして、神戸高商(現神戸大)主催で神戸岩屋敏馬ヶ浜にて行われた競漕大会(右写真は**大正初期の同大会**)において、決勝で大阪高工を破り優勝の栄冠を手にした。関大漕艇部第一期黄金期の幕開けである。

(4) 昭和2(1927)年 艇庫建設

創部以来、桜宮の大阪商大の艇庫を間借りしてきたが、昭和2年に神崎川下流の西淀川区佃島に拠点を移した。この地には当時の総理事・学長の山岡順太郎氏(写真)が経営する肥料会社があり、その地の先端に位置する所に山岡氏がプレハブ建ての艇庫を建設し、会社の社員寮として使用していたアパートを合宿所として提供した。同氏の長男・倭氏も関大の特に体育会の強力な支援者で、漕艇部に艇を寄贈している。



上：神戸大学漕艇部『神漕90年のあゆみ』



大正時代の花形スポーツ

今井司 初代紫紺会会長によると「創部当時ボートは大変な人気スポーツで、レースの際には両岸が観衆で埋め尽くされる程だった。大正15年5月に堂島川で行われた、初の対外試合となる競漕大会当日も、官庁役人や大阪の有名な伝馬船で観戦し、岸には宝塚歌劇の女優が多数見受けられた」という。外来の水上スポーツには古来の武道系競技にはない花があり、若者の羨望の的であった。写真は**大正中頃の大会**で、背景の建物は7年竣工の中之島・中央公会堂。



(5) 関大体育会他クラブの原点

関西大学年史編纂室HPの「スポーツ史」に掲載されている、歴史の古い体育会クラブにおける初対外試合など「活動元年」と思われる年を拾うと、次のとおりである。

【明治40(1907)年】陸上、【43年】相撲・テニス

【大正4(1915)年】野球・武術(剣道・柔道)、【9年】剣道、【10年】サッカー、

【12年】漕艇・応援団・ラグビー、【13年】馬術・ビリヤード・水泳、【14年】ボクシング・卓球

【昭和2(1927)年】柔道・射撃、【3年】スキー・山岳・ホッケー、【5年】航空・バスケット、【7年】弓道・日本拳法、【8年】自動車、【10年】アメリカンフットボール・ヨット。以降割愛

(6) 昭和3年 第一回日本選手権競漕にて栄光の日本一

創部以来、今ひとつ振るわない戦績を創部3年目にして雪辱するべく、4月には2週間に及ぶ合宿を行った。早朝6時から神崎川に艇を浮かべて特訓した結果、関西地区の各大会を制覇し破竹の勢いを示した。創部以来のマネージャー後藤延治は「顧みれば幾多苦難の日は夢の過去となった」と感慨を『千里山學報』に記している。

並みいる西日本の強豪を破り日本漕艇協会関西支部選手権競漕を制した関大予科クルーは、関西代表として8月26日、日本漕艇協会主催の第1回高等専門学校日本選手権競漕大会(宇治川淀コース・1300m)にて関東代表の慶應予科を迎え撃った。絶好のレース日和のもと大勢の観衆が押し寄せ、非常

に活況を呈する中、関大はスタートで先んじて、1000mを過ぎたあたりで追いつかれそうになるも懸命に粘り、タイム4分32秒2、4/5艇身差で競り勝ち、栄光の全国制覇を成し遂げた。

	舵手	整調	五番	四番	三番	二番	舳手
関西大學豫科	辻村	田中	北村	森	直吉	寺西	泉
慶應義塾豫科	伊藤	於久田	梨本	國分	八木澤	石川	谷山

(7) 昭和4年、5年 シェル艇への転向、エイトで関西選手権初優勝、連覇

フィックスからエイトに転向してわずか3ヵ月後に第2回関西選手権競漕会(宇治川淀コース)にのぞみ、決勝で前年優勝の京都帝大と対戦、京大有利の予想を覆し、3艇身差をつけ堂々の優勝。翌年も同大会を連覇した。なお、関東代表の東京帝大と日本一をかけて対戦するも、2年続けて敗れている。

(8) 昭和9年 室戸台風により艇庫流失

6月10日第13回関西漕艇倶楽部競漕フォアシェルとシックスで優勝、更に9月9日第7回関西選手権競漕会フォアシェルで優勝するなどの活躍を見せるが、この先に関大漕艇部にとり将来に亘り苦難の道を強いられる未曾有の厄災が訪れる。

9月21日に高知県室戸岬付近に上陸し、死者2千7百人、全壊家屋3万9千戸という西日本を中心に甚大な被害をもたらした室戸台風により、神崎川の関大艇庫を失った。以降、専用艇庫を所有することなく、桜宮の大阪商大や共同艇庫、新淀川の神戸高商、浜寺の漕艇場へと活動拠点を転々とする、いわばジプシー生活を送ることになる。



なお、関西学院大学ボート部は、昭和32年に大阪市長柄の大川沿いに建てた専用艇庫を、44年9月に類焼により、関大の対校エイト艇「千里」を含むボート、オールもろとも焼失してしまう。以降、関大と同様に間借り生活を歩むことになる。

実は、部歌(曲付き)がある――

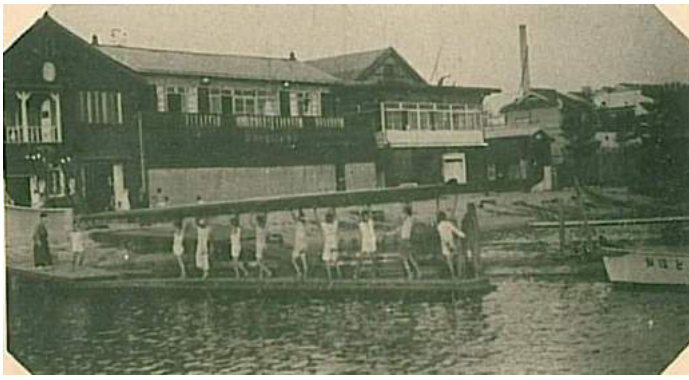
三高(京大)の「琵琶湖周航の歌」(6番までである)は歌えても、関大漕艇部の部歌は現役時代に教わらないし、OBが歌っているのも聴いたことがない。その存在すら知られていないのではないかと。昭和2年に歌詞は学生一般から公募し、曲は中村良之助講師がつけた。歌詞は裏表紙に、楽譜(同年7月15日付『千里山學報』)は左記のとおり。因みに、逍遙歌は5番までであり序誦(前口上)は4パターンある(『関西大学応援団80周年記念誌』)。



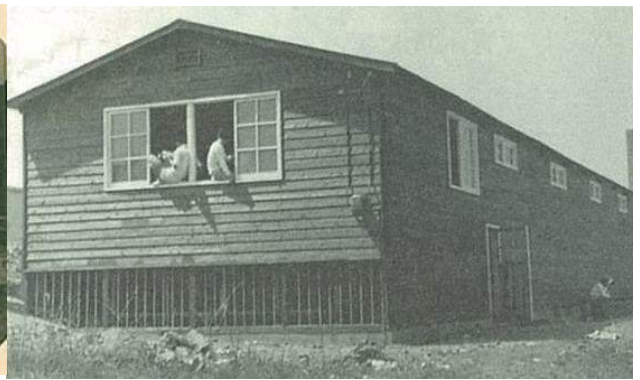
上:昭和5年『卒業アルバム』



昭和3年6月15日付『千里山學報』



間借りしていた桜宮の大阪商大(現大阪市大)艇庫
＝昭和 16 年『卒業アルバム』



昭和 32 年完成の長柄の関学艇庫。同 44 年に焼失。
＝関西学院大学漕艇部『創部百年の歩み』

(9) 昭和 10 年 関西選手権 エイト優勝

艇庫流失という逆境に負けず、桜宮の大阪商大の艇庫を間借りして練習を再開した関大は、第 8 回関西選手権競漕会エイトの部決勝で三高を破り、見事優勝を果たす。

(10) 昭和 12 年 漕友の死

関西選手権に向けて合宿していた 7 月 25 日、エイトが 2 隻の船を避けようとして、折からの急流に流され、都島橋の橋脚に衝突し大破する事故が発生する。主将の直吉敬次が死亡し、関大漕艇部史上唯一の水難犠牲者となった。直吉主将は腰を強打しながらも「大丈夫か、皆泳げるか?」と声を出し、クルーを気遣っていたという。本人の無念、両親の悲しみはいかばかりか察して余りある。関大漕艇部はこの若き主将の死を胸に刻み、決して事故を風化させることなく、安全対策を徹底せねばならない。



在りし日の直吉主将



同期の第 14 代が、共に卒業できなかった故直吉主将を偲び、生前の写真と死亡記事を掲載した＝昭和 13 年『卒業アルバム』

関西選手権エイト優勝(昭和 10 年)時のメンバー
＝同 11 年『卒業アルバム』

ゆらぐ自由～昭和 16 年 12 月付『卒業アルバム』から
編集後記(抜粋) 学生アルバム委員

「此のアルバムが諸兄の手許に送附される頃は殆んど全員が銃持つ姿も勇しく軍務に精勵せられてゐる頃ではないかと思ひます兵舎の一隅で或は露營の暇に此のアルバムを眺めて學園生活を…學友の顔を連想して微苦笑を口邊に漾はされゝば幸甚です」

左：学歌のページの挿入写真

右：宣戦布告・真珠湾攻撃を報じる新聞記事を掲載



(11) 昭和 14 年～ 戦争拡大、活動縮小・休部

満州事変が起きた昭和 6 年頃から関大でも軍事訓練が強化され、官憲による思想取締りの嵐が吹き荒れた。12 年に日中事変、14 年には第 2 次世界大戦が始まる。15 年の関西選手権出場後、活動は年々縮小され、18 年の学徒出陣を機に休部状態となる。(写真：軍事教練＝昭和 16 年『卒業アルバム』)



2 復活 ～第二期黄金時代へ～

(1) 昭和 20 年 漕艇部復活

あたりは焼け野原、深刻な食糧難という環境にあって、終戦の翌 9 月に入部案内の掲示を見た大平良純（昭和 22 年予科・25 年大学卒）、東山利雄（同 23 年予科・26 年大学卒）らが桜宮に足を運び、そこでエイトは舵取り（コックスという表現は知らなかった）を入れて 9 人が揃わなければ漕げないことがわかり、先ず人数を集めることから戦後の第一歩が始まった。大阪商大の艇庫を借りて、残されていた戦前のボート（エイト 1 艇、フォア 1 艇）を使い練習を始める。学徒出陣した先輩が戦地から復員しておらず、暗中模索の活動であったが、全員が予科生であったメンバーは若さに溢れていた。なお、大平と東山は後に第 4 代、第 5 代紫紺会会長となる。〔写真：昭和 60 年「上田先生欧州留学壮行会」2 列目右から東山、大平、熊田壮一（34 年卒。後に第 6 代会長）。手前は上田夫妻〕



21 年 7 月には立命大、大阪商大と第 1 回 3 大学リーグ戦を実施し、関西選手権フォアの部で優勝。22 年の西日本予科大会で優勝している。

(2) 昭和 23 年、24 年 関西選手権 エイト優勝、連覇

昭和 22 年からコーチになった岡本 操（昭和 11 年予科・14 年大学卒）の強力な指導の下で、瀬田川で開催された関西学生選手権エイトの部において、決勝で三高とデッドヒートの末、優勝を遂げる。岡本コーチはスパルタ式でありながら、いたずらに精神論を説くことなく、デンマーク体操のトレーナーを招いて筋力の柔軟・強化を図ったり、「16mm 撮影愛好会」を合宿に呼び寄せ乗艇フォームを撮影、分析したり、キャッチで上体の力を抜き、足の始動で水を掴むことを旨とする「岡本漕法」を採り入れるなど、理論と実践に裏付けられた、当時としては画期的な指導法を採った。翌 24 年も同大会で連続優勝を果たす。



昭和 23 年関西選手権優勝クルー 八鳥治一顧問(前列中)の自宅で
＝東山利雄(前列左)提供



昭和 23 年 瀬田川合宿での岡本操コーチ
(右)と芝野淳(15 年卒)コーチ
＝東山利雄提供

(3) 昭和 28 年 杉原四郎顧問(部長)就任

関西大学が新制大学となった昭和 23 年に経済学部に着任され、漕艇部顧問(部長)には八鳥治一顧問・文学部教授(英文学)の急逝の後を受けて 28 年に就任された。戦後の貧しい時代は教育・研究や課外活動に打ち込める環境にはなく、部員と苦労をともにされる。17 年間に亘り顧問を務められ、退任後は甲南大学に移籍され、学長まで務められた。



昭和 25 年『卒業アルバム』

戦後混乱期の苦労と工夫

終戦後間もない昭和 23 年の関西選手権優勝の裏には、部員たちの並々ならぬ苦労と創意工夫があった。①同年夏の 2 カ月の長期合宿で、琵琶湖畔に住む部員の親戚の農家まで米を調達するのに、京大のフィックスを借りて漕ぎ出し、帰路はその船底に米を隠し、夕闇に紛れて「ローッ！ローッ！」とヤミ米摘発の検問所のある唐橋をまんまと通過する、②配給で肉が手に入らないので、牛肉の骨をたたき割って髓を取り出し野菜と煮込んで肉の味を出す「髓のカレー」が毎夜のごとく出た、③戦火で造船所が焼失し、先代の子息が一人で細々とやっている木工所に新艇エイトを発注、業者 2 人が大阪の生野区から大八車で新艇を搬送するも、逢坂山越えでは加勢依頼を受けたクルー全員が電車で駆けつけ、一気に瀬田川まで運んだ。



瀬田唐橋

(4) 昭和 32 年 関関選 始まる

第 1 回定期戦は昭和 32 年 6 月 2 日（日）午後 1 時、大川（桜宮旧淀川）1600m コースで開催した。前半は関学がリード、しかし後半関大がじりじりと差を詰め 4 分 50 秒、3 艇身差でゴールし記念すべき初勝利を飾った。以降、39 年の東京オリンピック開催年を除き毎年、たとえ開催場所は桜宮、新淀川、浜寺、そして現在の神崎川と変われども、欠かさず対戦を重ねてきた。平成 25 年 6 月に至る戦績は関大の 33 勝 23 敗である。



写真左・中＝阪本 正(昭和 35 年卒)提供、同右＝平野恭一(同年卒)提供

昭和 33 年 第 2 回関関戦

(5) 昭和 35 年、37 年 関西選手権 エイト準優勝

昭和 35 年及び 37 年に関西選手権エイトの部で準優勝というように、30 年代においても安定した戦績を残した。なお、35 年には関西学生漕艇リーグ戦エイトで優勝している（写真右）。

(6) 昭和 37 年 全日本小艇選手権 3 位



新 恵介(昭和 38 年卒)＝本人提供

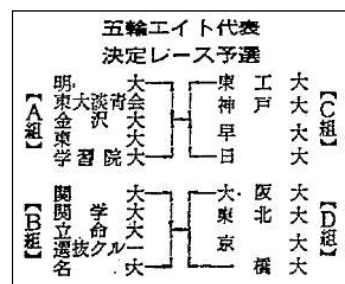


昭和 35 年阪神リーグ優勝＝当摩嘉治(昭和 29 年卒)提供

東京オリンピックを 2 年後に控え、同志社大生とただ 2 人、関西選抜となった新 恵介（昭和 38 年卒・写真左）は、戸田でも早慶の選手たちと合宿を重ねたうえ、全日本小艇選手権シングルスカルの部で、借艇のハンディにもかかわらず、堂々の 3 位入賞を果たした。翌 38 年にオリンピック強化選手に選出されるが、就職して十分な練習ができず辞退している。なお、平成 18 年になり「昭和 63 年の富士登山に始まり、18 年かけて日本百名山を完登した」旨の嬉しい便りが漕艇部に届いた。

(7) 昭和 39 年 東京オリンピック予選 エイト敗退

アジア初となる昭和 39 年の東京オリンピックのエイト代表決定レースに関大も参戦している。参加 18 クルーのうち 1 クルーは、関東の大学から選抜されたメンバーにより編成された。その選抜方式をめくり、全国的な規模で行うべきだと地方大学が異議を唱え“遺恨試合”とも呼ばれた。結果は関大は予選落ち、選抜クルーが優勝し代表となる。オリンピックでは日本は 10 位、金メダルはドイツの 2 連覇を 1 艇身半差で阻んだアメリカが 6 分 18 秒 23 で奪還した。

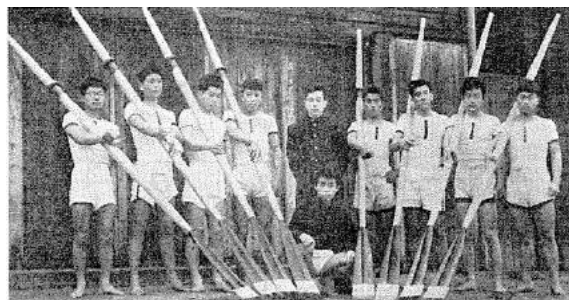


(8) 昭和 40 年 朝日レガッタ 3 位

新コーチに三田 勝（昭和 36 年卒）、清水省三（同 37 年卒）が就任し、部員との年齢が近く一体感をもった指導、運営を行う。朝日レガッタでは決勝で唐橋の橋脚に接触し、惜しくも 30cm 差で 3 位となる。

仁義なき戦い

昭和 32 年、以前からライバルとして互いに対抗意識を燃やしていた関大・関学の第 1 回定期戦が開催された。しかし、第 3 回までの関関戦は互いの力を競うというよりも、ライバル心をむき出しにして艇を故意にぶつけたりするほどの、いわば“喧嘩”状態で、第 1 回では関大が自艇「水星」を壊し、大阪市大に借艇して出場したほどだった。それでは関関戦の存在意義が失われることに気づいた両校は、34 年の第 3 回関関戦（写真：同年関大対校クルー）終了後に関関コンパを開いて関係修復を図り、良きライバル関係は現在に至る。



(9) 昭和 42 年 関西学生漕艇リーグ戦 エイト優勝

同志社、京大、関学、大阪市大、神戸、大阪府大、関大の 7 大学が参加する関西学生漕艇リーグ戦（エイト）において、5 戦全勝により堂々の優勝を果たす。関西選手権では 5 年ぶりに決勝進出を果たすが、惜しくも 4 位に終わっている。

(10) 昭和 42 年 新艇庫建設計画

昭和 9 年の室戸台風による関大艇庫流出以来、他大学の艇庫を間借りして活動が続いていたが、更なるレベルアップを目指す関大にとって、自分たちの艇庫を持たない環境はハンディであった。その逆境を打開すべく、42 年に紫紺会役員を中心とする艇庫建設実行委員会を結成し、度重なる話し



写真左・右＝大山 剛(昭和 45 年卒)提供



第 16 回関西学生漕艇リーグ戦優勝クルー

合いの末、同年の紫紺会総会では艇庫建設地も決定し、建設費等の細部に亘る検討も行った。しかし、この艇庫建設地が大学所有でない借用地であることから、大学側から得られるはずであった援助も不可能となり、結局、艇庫建設計画は水泡に帰すこととなった。

(11) 昭和 44 年 上田達三顧問（部長）就任

学園紛争が激しさを増す昭和 44 年に上田達三社会学部教授が顧問（部長）に就任され、30 年に及び部員は公私ともにご指導ご支援いただいた。卒業後も仲人をしていただいたり、上田先生のお力添えによりなん

とか卒業できた O B も少なからずいるだろう。

平成 11 年、ご退職にあたり開催された「感謝のつどい」（写真左）には、O B ・ O G、現役部員、大学関係者など 268 名もの参加者が集まった。その際、ボートにまつわる珠玉のエッセーを小冊子『ボートに魅せられ参拾年』（写真右）にまとめ配付された。



(12) 昭和 47 年 女子マネージャー入部

創部 47 年目にして初めての女子マネージャーとして片山（現上山）佳代、木村（現鳴川）仁美を迎える（写真左）。眉をひそめる O B もいたが、合宿の運営等において選手の負担が大幅に軽減され、練習に打ち込める環境づくりに貢献した。なお、平成元年に朝日レガッタのシンボルマークの一般公募があり、片山の作品（写真右）が見事に選ばれ、以後朝日レガッタのシンボルとして広く親しまれている。



ワイルドな時代

昭和 43 年から 44 年にかけて大学紛争の嵐が吹き荒れ、関大でも 44 年 6 月の関大会館封鎖（写真：同会館前の乱闘）を発端として半年以上紛争が続いた。体育会各クラブの面々と関大を守るべく、凱風館に籠城した漕艇部員もいる。体育会を「大学当局に加担する右翼」と目の敵にする全共闘の要求を受け入れ、関大は体育推薦制度を廃止、以降、制度復活までの 30 年に及ぶ関大スポーツの低迷を招いた。もっとも、漕艇部には元々体育推薦枠がなく、学内に練習拠点がないため紛争中も活動はしていた。当時在学の O B いわく「大学へ通うより艇庫に行くほうが多かった。期末試験はレポート提出が多く助かった」。(勉強はしないが?) 授業には出席するという今の学生には隔世の感があるだろう。



3 古豪復活をかけて

(1) 昭和 50 年前後 戦績低迷期

昭和 50 年前後の大学ボート界の勢力関係は「西高東低」の時代といわれ、インカレで同志社大が 48 年優勝、49 年 3 位、50 年 2 位、54 年 2 位。51 年には立命館大が関大からの借艇「紫紺」で優勝している。その中であって関大は、慢性的な部員不足と財政難に苦しみ、戦績は振るわなかった。

(2) 昭和 56 年 紫紺会再建、黒津監督就任

昭和 50 年代に入り部の低迷、崎谷 孝（昭和 44 年卒）監督の東京転勤、紫紺会の弱体化を憂慮した若手 OB たちが、大山 剛（45 年卒）を委員長として紫紺会実行委員会を立ち上げ、紫紺会の若返りを図るとともに、黒津忠夫新監督（39 年卒、当時 40 才）招請、新艇（千里Ⅱ世）購入というように指導・支援体制の抜本的な立て直しを図った。また、紫紺会機関紙『紫紺』を 56 年 5 月 31 日付で第 1 号（下記右）を発刊し、61 年以降は部誌『千里』と合併で毎年 11 月に発行している。

新生漕艇部・紫紺会のスタートである。

その強化策が結実し、後述の戦果を上げ、関西ボート界の中心的存在へと躍進する。

実行委員会決議文

- 一、艇庫及び合宿所の建設
- 一、紫紺会の本部、支部の設置
- 一、後援会の結成
- 一、OB 結束促進のための準備委員会編成
- 一、実行委員設定と定例会開催
- 一、関大体育 OB 会への積極的な参画とアピール
- 一、関大戦の復活
- 一、新 OB 名簿の作製
- 一、機関紙の発行
- 一、OB 会費の徴収方法の改善
- 一、監督・コーチの待遇改善
- 一、その他

関西大学漕艇部紫紺会
実行委員会



漕艇部の現場指導並びに紫紺会要職等を歴任

崎谷 孝(左)：漕艇部監督、紫紺会監事長
平成 6 年 2 月 13 日急逝 享年 46 歳

黒津忠夫(中)：漕艇部監督、現紫紺会会長、
現関大評議員、体育 OB 会理事長・副会長

大山 剛(右)：漕艇部コーチ、紫紺会実行委員
長、現紫紺会副会長

部誌『千里』のルーツ

昭和 44 年秋、第 46 代（45 年卒。以下大山剛主将談を引用）が、現役部員各人の考え方や意思、活動状況を先輩方に伝え、少しでも OB・現役間の連帯感を築くべく文集の発刊を提唱し、ザラ半紙にガリ版刷りの『千里』が誕生した。名称は当時の対校エイトの艇名「千里」からとった。44 年頃と言えば学園紛争の嵐が吹き荒れ、OB 会と現役の断絶どころではなかった。しかし、卒業を目の前にしてこのままでは、という思いから始めた文集である。その後幾つかの変遷を経て、57 年に改めて文集『千里'82』が発刊。この時どういう理由か「創刊号」として新たにナンバリングされ、現在まで続いている。

(3) 昭和 58 年 創部 60 周年記念行事 祝賀会挙行、カーボン製エイト初購入

10 月 8 日、大阪コクサイホテルにて創部 60 周年記念式典・祝賀会（写真左）を開催し、OB150 名、来賓、現役部員合わせて 200 名を超す大盛会となった。

また、創部 60 周年を記念して、関大漕艇部にとって初のカーボン製エイト（千里Ⅲ世）を購入した（写真中：進水式）。費用はオールと合わせて 300 万円、うち 230 万円を紫紺会が寄付している。木製の旧艇より 10 キロ軽い 90 キロ。そのスマートな造形美を放つ新艇は、対校のポジションと相まって部員の憧れの存在となった。



(4) 昭和 58 年 関西選手権 対校エイト準優勝、瀬田川杯 Jr エイト優勝

新艇購入で意気上がる関大対校クルーは、創部 60 周年に花を添えるべく、長期の低迷を脱する復活を遂げた（写真右上）。

(5) 昭和 59 年 朝日レガッタ 対校エイト準優勝

復活した関大クルーを一目見ようと、OB・OGはバスをチャーターして応援に駆けつけた。その期待に応え、1位の京大と 1.9 秒の僅差で 2 位となる（写真）。この時の主将・森實一郎（昭和 60 年卒。後列左から 2 人目）は卒業後に実業団の名門・東レに進み、61 年開催のアジア大会（ソウル）において日本代表エイトクルーとして出漕し、銀メダルを獲得している。



(6) 昭和 62 年 関西選手権 対校エイト準優勝、瀬田川杯 Jr エイト優勝

上記戦績に加えて、1 年生を乗せた第 3 及び第 4 エイトも瀬田川杯にて敗者復活戦を経ずに準決勝進出を果たし、辛口批評の田中和彦（昭和 58 年卒）コーチにして「感動した」、更に「活躍の原動力となった今期幹部（第 62 代・63 年卒・写真）は色々な面で役者がそろっていて頼もしかった」と賛辞を送っている（いずれも『千里'87』）。後に対校 5 番：北浦 章が監督に、Jr エイトリーダー・副将：高宮憲浩がコーチに、



第 3 エイトリーダー：朝井正貴が副顧問・紫紺会事務局長に、対校コックス：中村淳二が紫紺会東京支部長に就いている。更に一代遡ると、対校バウ・副将：中村有吾が紫紺会幹事長・漕艇隊長に、対校 6 番・主将：中畑宏章が紫紺会財務部長になっている。今後の漕艇部、紫紺会の運営並びに相互の連携において、ボートで培ったチームワークの発揮が期待される。

昔から体罰はなかったよなあ

これは、木本八三郎（昭和 35 年卒）代表相談役の発言である。学校教育の場や運動クラブにおける相次ぐ体罰行為が、近年大きな社会問題となっている。漕艇部では過去に合理的とはいえない（その時は正しいと信じながら）ハードな練習をしたり、団体競技であるがゆえに規律が重んじられ、今でも遅刻に対しては腹筋、懸垂等のペナルティーを科すことはあるだろう。しかし、それらは個人の人權を無視した理不尽な体罰とは全く異なる。クルーは一心同体でなければならない。五感を働かせながらフォワード、キャッチ、フィニッシュのタイミングを合わせる。呼吸も合わせると言っても過言ではない。船台から蹴り出せば、コックスが下級生であってもその指示のもと漕ぐ。コックスを含むクルー内の相互信頼関係が不可欠である。体罰や陰湿な上下関係の入り込む余地はない。

(7) 昭和 62 年 女子クルー誕生

女子マネージャーとして勧誘され、花見がてらに桜宮に応援に来た女子学生がボート競技に魅了され、「漕ぎたい!」と言いだしたことから、女子ローヤンによるナックルクルー(写真)が誕生した。

平成 25 年現在は女子ローヤン 8 名、女子コックス 1 名を擁し、主に舵手付クォドルブルの部に参戦している。

因みに、明治 32 (1899) 年 8 月 13 日付『東京朝日新聞』には「大日本体育會女子漕艇部を設けんと海外の例を調ぶ此頃 大森で娘のボートレースがあつた」とある。



(8) 昭和 62 年 千里会発足

経済的負担・時間的拘束の大きい漕艇部の活動を物心両面に亘り支援すべく、部員の父母を中心とする後援会組織「千里会」が発足。漕艇部への理解を深めるとともに会員相互の親睦を図ることを目的として、毎年春に試乗会(写真左)・懇親会(同中・右)を開催している。



(9) 平成元(1989)年 韓国遠征

「4 年間の大学生活の中で、せめて一度ぐらいは海外で試合を」との思いから、オリンピック開催が決まって間もないソウルの大韓漕艇協会を訪ねた黒津監督は、慶応大に留学経験のある会長のホン氏に巡り会う。その縁で知り合った、同じく慶応大OBで東京オリンピック代表経験があり、韓国漕艇界との親交が深い菊池隆三氏の尽力もあり、韓国遠征、高麗大学との交流が実現する。高麗大は延世大と並び称される韓国私学の雄である。大統領旗争奪全国漕艇大会(写真:ソウルオリンピックコース)に参加した関大クルーは、パワーローイングの韓国精鋭クルーに対し、テクニックで応戦し 4 位入賞と健闘した。



その後、平成 4 年及び 9 年にも遠征し、6 年及び 12 年には高麗大クルーの遠征を受け入れている。OB 有志間では幾度となく互いに訪問し合い、親交を深めている。

(10) 平成 2 年 関西選手権 対校エイト 3 位、女子ナックル 3 位

初代女子ローヤンが 4 回生として迎えた関西選手権ナックルフォアで 3 位となる(写真左)。

同選手権で対校男子エイト(写真右)は、1 位の東レ滋賀と 2 秒差、2 位の同志社大と 0.59 秒差という僅差の 3 位だった。



たくましい女子開拓者

老朽化・不衛生・狭隘な桜宮共同艇庫、名称の由来である拳のようにゴツゴツして重たいナックル艇という恵まれない環境のもとで、昭和 62 年に女子クルーが誕生した。クルーリーダー野本(現影山)麻子(平成 3 年卒)の 1 年生にして書いた『千里』が秀逸。「マネージャーの勧誘を受け、花見がてら全くの軽い気持ちで市民レガッタの応援に行きました。そこで単純極まりなくも、銅色に揺れ輝く水面を滑るシルエットに完全に魅了されてしまうのです。その素敵な彼らを木陰でじっと見守るような、健気な少女のイメージがびったりな私のはずなのに、何故かしら“漕ぎたい!”という衝動に駆られてしまったのは、実に不思議な話です。・・・巷の女男説にめげず、意地でもローヤンかつ女の子であり続けるつもりです!」(抜粋)。

關西大學交 YB 名單

監督：黒津忠夫
TADAO KUROTSU

Coach：田中和孝
KAZUHIKO TANAKA

Eight (+ S) 2,000M

番 號	姓 名	學 科	學 年	身 長	體 重
B	米虫 俊之	經	3	176cm	65kg
2	山本 有	文	4	170cm	57kg
3	石井 陽	商	4	170cm	65kg
4	山川 淳也	經	2	178cm	78kg
5	河合 良昌	經	2	167cm	73kg
6	柏原 康秀	經	2	183cm	65kg
7	藤井 攻	法	3	178cm	75kg
S	船田 拓志	社	3	170cm	60kg
C	高岡 洋	商	3	168cm	56kg

高麗大學交 YB 名單

監督：方錫鳳
BAN, SUCK BONG

Coach：劉壽全
LIM, JONG SOO

Eight (+ S) 2,000M

番 號	姓 名	學 科	學 年	身 長	體 重
S	이 준 희 Lee Jun Hee	통 계	3	178cm	75kg
7	이 현 섭 Lee Hyun Sub	*	2	180cm	72kg
6	임 만 석 Lim Man Suk	재 료	4	182cm	76kg
5	장 인 섭 Jang In Sub	식 품 공 학	4	185cm	82kg
4	김 현 중 Kim Hyun Jong	*	4	180cm	73kg
3	박 연 신 Park Yeon Sin	트 록	4	178cm	75kg
2	강 경 수 Gang Kyung Soo	경 체	1	175cm	67kg
B	박 상 동 Park Sang Dong	미 술 교 육	1	174cm	65kg
C	이 강 율 Lee Gang Eui	*	4	169cm	62kg

平成4年5月2日關西大學交・高麗大學交
親善漕艇定期戰(漢江漕艇競技場)パンフレット

(11) 平成4年 創部70周年記念行事 高麗大学と親善交流提携

創部70周年を迎え記念行事として、第2回韓国遠征、記念式典・祝賀会挙行、記念誌発行を行う。

記念式典は平成4年11月21日 大阪プラザホテルにて開催し、高麗大漕艇部の指導教授やOB会幹部を招き、漕艇部親善交流提携の調印式を執り行った(写真下)。

記念誌は、OB・OG、関西大学年史編纂室、他大学記念誌、ボート協会、その他多方面から資料を収集し、創部以来の関大漕艇部の沿革、とりまく環境、時代背景を克明に調べ上げ、235ページに及ぶ関大漕艇部初の本格的な記念冊子として、黒津監督を中心とする実行委員会が作成した。



マネージャーの縁の下の奮闘――

漕艇部は合宿・遠征が多く、器具や艇庫使用関係の出費も大きい「会計」担当は大変である。紫紺会の支援なくしては部の運営はできず、500名を超えるOB・OGを相手にする「紫紺会」担当者の苦労は絶えない。内容が多岐に亘り約150ページのボリュームの部誌を毎年発行しているクラブはそうあるまい、部誌「千里」担当者の作業量は膨大である。そして「主務」は事務統括者であり、主将と並び責任は重い。皆、本当によくやってくれている。ローヤンはマネージャーがいなければ試合はおろか、合宿一つできない。感謝すべし！そしてその苦労に戦績で報いるべし！



4 飛躍 ～第三期黄金時代へ～

(1) 平成 6 年 神崎川に新艇庫竣工

昭和 9 年に室戸台風により艇庫を失って以来、42 年に一度は実現に近づきながらも果たしえなかった、夢の新艇庫。その建設に向けて紫紺会が再び動き始めたのは平成 2 年のことであつた。当時の様々な事情を考慮し検討を重ねるほど、関大単独で自前の艇庫を持つことが困難に思われた。そこで長年の良きライバルであり、パートナーである関学ボート部との共同艇庫を構える方向に可能性を探り始めた。

一級河川の堤防に建設可能な建物は、社会性を重視した公益法人でなければ大阪府から土地を借りられず、両校OBは必要な会員と資金を捻出し、社団法人・関西河川スポーツ振興協会を設立した。そのうえで行政との折衝に取り組み、3 年がかりでようやく艇庫建設の最低条件をクリア。以後 1 年をかけて、大阪府土木部、西大阪治水事務所、大阪府教育委員会保健体育課等の協力で、堤防の基礎工事と環境整備が行われ、平成 5 年に地鎮祭に漕ぎ着けた。そして 6 年 4 月、60 年に及ぶ借家暮らしを経て、遂に待望の新艇庫が古巣の神崎川沿いに完成するに至る（写真）。これにより練習環境は飛躍的に向上した。



(2) 平成 6 年 関西選手権 エイト準優勝

これまで見られなかったピッチ漕法を採り入れ、キャッチ前の遊びがなくなりキャッチで水を掴む感覚を会得した対校クルー。これにより過去数年の不振を吹き飛ばす戦績を残す（写真）。3 月からの新艇庫への移転により練習コンディションが格段に良くなったことも好成績につながった。新艇庫竣工から 3 カ月にして仏に魂が入った。

工藤泰正(平成 8 年卒)提供



『愛という名のもとに』効果-----

平成 4 年 1～3 月放送のテレビドラマ。鈴木保奈美、唐沢寿明、江口洋介が出演し、平均視聴率は 24.5%、最終回には 32.6%を記録。このドラマによりボート競技の認知度が高まり、同年の 1 年生部員は 10 月時点で、なんと 32 人！(『千里'92』部員名簿)。歴代最高不滅の入部数を記録した。一方、18 年 7～9 月放送の『レガッタ～君といた永遠～』。出演が速水もこみち、相武紗季、松田翔太、主題歌はコブクロと旬なキャストでのぞんだが、視聴率が平均 5.4%とふるわず 9 話で打ち切りとなる。二匹目のドジョウを期待したのだが・・・



左:春木 徹(平成 13 年卒)作
下:部員がこんなにいた時も・・・
＝平成 7 年 3 月卒業式



漕 艇 部



全日本大学選手権競漕大会
フワフワフォード風レガッタ

**究極の団体スポーツ
鮮やかに決まる
ラストスパートノ**

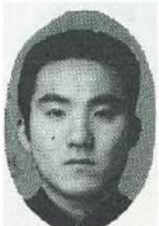
《学内人気度・注目度》	★★★★★
《実力度》	★★★★☆
《満足度・充実度》	★★★★★
《他大学との交流度》	★★★★★
《就職有利度》	★★★★★

自己採点

**さらなる発展をめざし
新本部幹部決定**

▽本部長 仁科雄一郎（社
3）Ⅱ漕艇部

「三角形の頂点でなく円の中心となって、改革を起こすアクレシブな本部を目指す」と熱く語る仁科は、皆の信頼を一身に集め貫禄十分。しかし外見は、とてもキュートなコアラ顔。特技Ⅱ放屁。



昨年12月2日に行われた幹部交代式で平成8年度の体育会本部・新幹部が決定した。

クラブ・キャッチコピー＝平成8年7月8日付『関西大学通信』 仁科雄一郎（平成9年卒）体育会本部長就任＝平成8年『関大スポーツ』

（3）平成11年 矢野秀利顧問（部長）就任

上田先生のご退職に伴い、後任として矢野秀利社会学部教授が顧問（部長）に就任され、現在に至っている。顧問就任時には、既に教学部長代理（学長補佐）、評議員といった大学、法人の要職を歴任されており、就任直後から漕艇部への支援のみならず、大学、法人とのパイプ役、働きかけの面でも尽力いただいている。



（4）平成12年 関西選手権 対校エイト3位、瀬田川杯 3rd優勝・Jr準優勝

関選エイト予選では東レと同組で2着。敗者復活戦に回り、朝日レガッタ決勝で負けている大阪大に競り勝ち決勝進出。3位となり6年ぶりにメダルを獲得する（写真左）。瀬田川杯では関大がワン・ツーフィニッシュするが、Jrと3rdの順位が逆転しているのが面白い。Jrにだけは負けたくないという3rd（同右）の意地が下剋上を成し遂げた。内部での競争が全体の底上げに結びつき、次へと繋がる層の厚みができた。



（5）平成15年 関西選手権 エイト3位、浜寺杯 優勝

朝日レガッタで決勝進出（6位）を果たすなど、春から好調を維持して、55年ぶりの優勝を目指して関西選手権を迎えたが、準決勝をトップタイムで通過するも、決勝では大接戦の末、優勝した京大に惜しくも3秒、2位の名古屋大とは2秒の僅差で3位となる（写真）。



高校時代の所属クラブのランキング1位は・・・？

“体育会ボート部”といえば、体力、精神力を要する強靱なイメージが強いのではないかな。かたやボート部が存在する高校は少なく、何かしらボート以外の運動部に所属していたと思われがち。ところが、関大漕艇部員の高校時代に所属していたクラブのランキング1位は、意外にも「帰宅部」だった！『千里』で'97～'00の4年に亘りアンケートを行い、回答者延べ340人のうち52人（15.3%）が無所属、以下、サッカー19人、野球15人・・・と続く。高校時代に運動部で輝かしい実績を残しながら燃え尽きてしまい、大学では自由を満喫したいと思う生徒がいる一方で、中途半端に過ごしやり残した感のある生徒が、体のゴツイ先輩に半ば騙されながら背中を押されて“大学デビュー”を果たし、濃密な4年間を全うするケースが少なくない。現在の“ゆとり世代”“さとり世代”にも、最初の一步を踏み出してほしい。

(6) 平成 16 年 創部 80 周年記念式典・祝賀会举行

1 月 31 日、リーガロイヤルホテル光琳の間において、法人、教学、体育会各部、他大学漕艇部、日本ボート協会等から来賓を迎え、OB・OGを含め総勢 420 名が集い、盛大に挙行了。会場に全長 18m に及ぶカーボン製のエイト艇と 4 m 弱のオールを展示し、普段間近で目にすることのないボート関係者以外の参加者が興味深く見入っていた。

第 1 部の式典では、スライド・動画上映を交えた創部以来の沿革報告に始まり、学歌斉唱、矢野顧問による記念辞の後、来賓祝辞、上田前顧問ら功労者に対する感謝盾贈呈を行った。

平成元年以来、3 度の韓国遠征等を通じて交流を深めてきた高麗大漕艇部関係者も、韓宰敏指導教授他 12 名が出席し、記念品の交換を行った。

また、関大創立 120 周年記念募金事業に対し、紫紺会から創部 80 周年に合わせて 80 万円の、高麗大学漕艇部 OB 会からも 100 万ウォンの寄付を行った。

第 2 部の祝賀会では、来賓祝辞、乾杯発声の後、祝宴に入り、普段の定例総会には出席できない遠隔者も含めて旧交を温め、あるいはクラブ間での交流を深めた。また、応援団の演舞披露、現役紹介、主将の決意表明があった。

閉会にあたり、就任 22 年目の黒津監督の功労を称えとともに、陰から支えてこられたみち代夫人に対しても、ひととき大きな慰労の拍手が送られた。

最後は全員が肩を組み、逍遙歌を応援団の指揮演奏に合わせ、声高らかに熱唱した。



上段左：右から木本八三郎会長、矢野秀利顧問、
宅和俊亮応援団長、木本光子会長夫人
下段左：感謝盾贈呈式。右から新井良桑野造船会長、
上田達三前顧問、神崎会・川口道晃氏

上段右：第一部式典 来賓祝辞
下段右：高麗大學漕艇部OBと紫紺会役員

実は、一般学生より学業優秀！？

平成 24～17 年度に亘る 8 年分の、関大漕艇部と関大全体の卒業率（卒業生数／在学者数）の統計を取ってみた。結果は前者が 66 人/77 人＝85.7%、後者が 46,032 人/56,214 人＝81.9%で、漕艇部のほうが関大全体より、卒業率が若干高かった。統計学上、サンプル数が足りているのか、結果に有意な差が認められると言えるのかはわからないが、練習がハードで体育会の中でも拘束時間が長い漕艇部にあって、健闘と言えるだろう。先輩のサポート、仲間とのつながりにより、授業や試験はむしろ有利にはかどる環境と、伝統の「やる時や、やる！」文武両道の実践といえよう。ただ、ここで優の取得率を調べる野暮なことは、やめておこう。



角帽×KAISEARS(文武両道のイメージ)

(7) 平成 16 年 朝日レガッタ 3 位、関西選手権・浜寺杯 エイト優勝

雌伏 56 年、関大が関西選手権エイト・浜寺杯エイトでダブル優勝を果たし、苦節 23 年の黒津監督、コーチ、OB・OG、その他関係者に至福の時をもたらした（写真上・下）。

時は、アテネオリンピックで金 16、銀 9、銅 12 というかつてない日本選手の大活躍で、閉塞状況にある国民が元気づけられた同じ 8 月だった。

56 年ぶりの優勝

今年、冬、量をかさねる練習から質を高める練習に変更した関大。その結果、概ね、大阪シテイレガッタとにも優勝。また朝日レガッタでは、男子エイトの部で西日本・中京学生 1 位の称号を獲得した。勢いそのままに乗り込んだ今大会、インカレ出場を目指すが、予選で敗れ、絶対負けられない戦いが始まった。予選、スタート直後からわずかな差で関大と京大が激しく競い合い、1000m 地点で、京大に 4 秒の差をつけられる苦しい展開。いづつならば、ここで焦ってリズムを崩すことが多かった。しかし今回は違う。選手たちは落ち着いていて、練習通りの力を出せば、絶対勝てる。その強い気持ちで胸に戦った。接戦の末、ついに京大を逆転、0.6 秒という僅差（きんさん）で、ゴールし、電々の 1 位で決勝へ駒を進める。

バトンを後輩へ

今年、次々と偉業を成し遂げた関大エイト。しかし、インカレでは目標どおりだった 4 年生のなし得なかった夢を引継ぎ、関西選手権はもう一回、後輩たちがさらなる飛躍を見せられるに違いない。

今年、冬、量をかさねる練習から質を高める練習に変更した関大。その結果、概ね、大阪シテイレガッタとにも優勝。また朝日レガッタでは、男子エイトの部で西日本・中京学生 1 位の称号を獲得した。勢いそのままに乗り込んだ今大会、インカレ出場を目指すが、予選で敗れ、絶対負けられない戦いが始まった。予選、スタート直後からわずかな差で関大と京大が激しく競い合い、1000m 地点で、京大に 4 秒の差をつけられる苦しい展開。いづつならば、ここで焦ってリズムを崩すことが多かった。しかし今回は違う。選手たちは落ち着いていて、練習通りの力を出せば、絶対勝てる。その強い気持ちで胸に戦った。接戦の末、ついに京大を逆転、0.6 秒という僅差（きんさん）で、ゴールし、電々の 1 位で決勝へ駒を進める。

56 年ぶりの優勝

今年、冬、量をかさねる練習から質を高める練習に変更した関大。その結果、概ね、大阪シテイレガッタとにも優勝。また朝日レガッタでは、男子エイトの部で西日本・中京学生 1 位の称号を獲得した。勢いそのままに乗り込んだ今大会、インカレ出場を目指すが、予選で敗れ、絶対負けられない戦いが始まった。予選、スタート直後からわずかな差で関大と京大が激しく競い合い、1000m 地点で、京大に 4 秒の差をつけられる苦しい展開。いづつならば、ここで焦ってリズムを崩すことが多かった。しかし今回は違う。選手たちは落ち着いていて、練習通りの力を出せば、絶対勝てる。その強い気持ちで胸に戦った。接戦の末、ついに京大を逆転、0.6 秒という僅差（きんさん）で、ゴールし、電々の 1 位で決勝へ駒を進める。

決勝 関大 6分36秒02

漕艇部



平成 16 年『関大スポーツ』

日々の苦しい練習にも耐えぬき、勝利を目指し全力でこぎ続ける関大エイト

実力を証明 関西王者

準決勝をトップで通過しながら決勝で惜敗した去年の悔しさを糧に、この一年心身の鍛錬に励んできた関大クルーは、去年の優勝校・京大と大接戦の末にラストスパートで突き放し栄冠を手にした。

創部 80 周年を迎え、1 月の記念祝賀会で主将が決意表明したとおりの結果となる有言実行ぶりに、漕艇部 OB・OG、その他関係者は大いに勇気づけられた。

浜寺杯レガッタでも関大 Jr エイトが優勝し、関大漕艇部の第三期黄金期を迎えたといえるだろう。

奇しくもこの優勝は、関

大漕艇部をこよなく愛し、同年 9 月 22 日に亡くなられた前顧問の上田達三先生に捧げるものとなった。合掌。

なお、関選優勝を記念して、紫紺会で募金を行ったところ、現役が強くなると褒美と期待の意味合いから、応援してやろうという気持ちが強く働くのであろう、122 名の OB・OG から 4,341,000 円もの寄付金が集まり、千里 X III 世としてエイト（ドイツ・エンバッハ製）を購入し、漕艇部に寄贈した。



(8) 平成 18 年 女子クォドルプル 関西選手権準優勝、全日本大学選手権 7 位入賞

女子クォドルプルが部内での競争環境のもと猛練習の末、関西選手権で初メダルとなる準優勝を遂げる。インカレでは予選 2 位から敗者復活戦へまわり、鹿屋体育大を 0.58 秒差でかわし、長年の目標であったインカレベスト 8（最終日）に進出、7 位入賞の快挙を達成した。（写真）。



一世を風靡したスタジャン

胸や背中にチーム名やマークをあしらった漕艇部オリジナルのスタジャン（写真左：右側）を第 66 代（平成 2 年卒）が作り、以降平成 20 年頃まではほぼ全員が数万円で購入し愛用していた。7 年の『関大スポーツ』紙の学内アンケートで「人気 No. 1」にも選ばれた（同右）。勧誘時には暑いのを我慢しながら、スタジャンを着て新入生に熱くボートを語り、オフの日には鍛え上げた体に鎧のようにまとい、梅田に繰り出しては女子と和やかに“異業種交流”を図った OB もいるとか。現在は温暖化の影響か、値ごろ感と流行か、薄手の通称“ロージャケ”（同左：左側）をはおり、体育会共通の愛称“Kaisers”のロゴ入りのスウェットパンツを組み合わせたりしている。

黒津監督の退任を受けて、北浦 章（昭和 63 年卒）が新監督として黒津監督の信条を守りつつ現役指導を行うとともに、OB・OG一丸となって現役部員の活動支援を行っている。



(4) 平成 23 年 漕援隊結成

平成 6 年度の部員数 100 名をピークに徐々に減り始め、同 20 年頃から男子エイト 1 クルーの編成すら危ぶまれる状況に危機感を抱いた中村有吾（昭和 62 年卒）の発案により、22 年春に紫紺会の中堅若手 OB 23 名で新入部員勧誘のサポートをした。それがきっかけとなり、部員、監督・コーチへの側面後方からの支援、紫紺会員の活発な交流を図る企画、実行を主な目的とし、中村をリーダー（隊長）とする「漕援隊」を結成。その後、紫紺会幹事会の実行委員会（実働部隊）を担うようになり、25 年現在では紫紺会の会長団・監査部を除く役職者 23 名のうち 15 名が漕援隊員（東京支部を含む）となっている。

漕援隊は今後も中堅若手から新たなメンバーを加えながら、強い関大漕艇部を目指すとともに、紫紺会員一人ひとりの意見を吸い上げ、価値観の多様性に対応できる紫紺会の組織作りに注力する。

(5) 平成 24 年 紫紺会レガッタ開催

福島 彰（平成 13 年卒）幹事（漕援隊員・紫紺会企画部長）からの「紫紺会活動において、現役部員に対する支援はなくてはならないが、OB・OGが集まり交流できるような、OB・OGのためのイベントができないか」という発案が契機となり、現役部員の関関戦の開催日に合わせ、その応援とともに OB・OG 相互の交流を深め、今後の紫紺会活動への参加意識を高めることを目的として、企画、運営も若手幹事（漕援隊）を中心に第 1 回紫紺会レガッタを実施した。



日時：6 月 16 日（土）関関戦閉会式後 12:00～13:00、
場所：神崎川共同艇庫前
距離：300m、種目：エイト（2 艇レース）男女混成、
新大吹橋～船台付近

レガッタ参加者：26 名、懇親会のみ参加者：18 名。
レース終了後に中華レストランで懇親会（写真）。

なお、参加者アンケートの結果、大好評につき、25 年にも第 2 回目を実施し、今後継続して開催する予定である。



左奥から生駒和子(H20 卒)、中村有吾
漕援隊長(S62 卒)、谷村隆子(H2 卒)
手前は黒津夫妻

応援団・チアガールの“パチもん”現る！-----

中堅若手幹事で結成された漕援隊員たちが、黒津監督退任感謝会で応援団・チアガールに扮し大熱演。応援団への謝礼金を惜しんだのではない、手作りの演出で謝意を伝えたかったのだ。場は非常に盛り上がり、黒津夫妻も大変な喜びよう。出演者から「羞恥心を捨ててアホになった(元々アホやがな!)」「女装が病みつきになりそう(まあ趣味の範囲なら...)」という声も。大好評？につき将来サプライズアゲイン（復活）か！？

<注>パチもん：偽物。パッタもん：ワケありで安売対象になるが品自体は正規品。関西弁も関西大も奥が深い！？

(6) 平成 24 年 神崎川レガッタ開催（関西河川スポーツ振興協会）

（社）関西河川スポーツ振興協会の主催により、関西ボートマン倶楽部の協賛を得て、同協会の公益事業の一環として開催され、関大が幹事校として準備から携わった。

日時：11 月 18 日（日）10：30～14：30、場所：神崎川共同艇庫前

距離：300m、種目：エイト 4 クルーでの 2 杯レース、予選 2 レース・決勝

参加大学（OB・OG）：関大、関学、甲南、同志社、立命館、神戸、阪大、市大、府大

レース後に共同艇庫 1 階の納艇スペースにて懇親会を行い、大学の垣根を越えた交流を深めた。翌 25 年 11 月 10 日に行った第 2 回神崎川レガッタでは、11 大学、6 クルー、75 名に参加者の輪が広がった。



(7) 平成 24 年 紫紺会ガバナンスの見直し

紫紺会活動において、役割分担と責任の所在を明確にするべく、会長団（正副会長及び幹事長）のもとに、監督コーチ部、財務部、総務部、事業部、企画部、渉外部、東京支部及び監査部の「部」を設け運営することが、平成 24 年度紫紺会総会で承認された。

とはいえ、会社組織とは異なり、仕事、家庭を持ちながらのボランティア活動のため無理はきかない。紫紺会の幹事会内、並びに幹事とその代の OB・OG たちが日頃からコミュニケーションを図り、風通しの良い連携の取れた組織運営を地道に行うことが肝要であろう。

(8) 平成 25 年 紫紺会東京支部発足

「卒業後に現役当時の一喜一憂した思い出を語り合える場所、機会として紫紺会がある」という木本会長の意に沿い、また、関東在住の OB・OG から「地元で交流をもちたい」との声を受け、中村淳二（昭和 63 年卒）を支部長として、約 90 名の会員からなる紫紺会東京支部が、平成 25 年 2 月 2 日に発足した。同日、東京日本橋にて発足パーティーを開催。大阪から黒津、大山両副会長、北浦監督、中村副幹事長、朝井副顧問・総務部長も駆け付け、総勢 32 名が集った（写真）。

東京支部発足にあたり活動方針として、① OB・OG 同士の懇親、② 現役の支援、③ 異業種交流の場の提供、④ OB・OG 同士何でも相談出来る場の提供、を掲げる。

東京でのコミュニケーションアップを目指し、同年のイベントとして、① 2 月 22 日：発足パーティー開催（32 名参加）、② 6 月 30 日：お台場レガッタ参加（23 名参加）、③ 8 月 24 日：インカレ応援ツアー開催（14 名参加）を実施した。今後も定期的にイベントを提案していく予定である。



大変身！？劇的ビフォーアフター

合宿が多いボート部員の憩いのひと時、それはご飯タイム。各自〇協から拝借してきた丼×2、皿×1 に、マネージャーの愛情が詰まった、ありえない量のご飯と具たくさん味噌汁とボリューム満点のおかずが出る。しっかり食べないとスタミナもパワーも備わらない。だから、入部時は先輩から「食べる食べる」と言われ、特に細身の部員は“根性メシ”を必死に平らげるものの、翌朝、1 回では流れないくらいのお通じもあり、すぐには身につかない。しかし、引退する時にはキッチリ食べられるようになり、カッコイイ身体ができ上がる。難点は引退してからの食事量。運動量が激減する分意識して減らさないと、すぐにデブになってしまうのだ（写真）。



before(65 kg) ⇒ after(95 kg)
K(平成 7 年卒)の場合

平成 25 年 8 月インカレ応援ツアー



平成 25 年 6 月お台場レガッタ



(9) 平成 25 年 新公益法人制度による一般社団法人化（関西河川スポーツ振興協会）

松室 猛（関大 34 年卒）前理事長のリーダーシップのもと、2 年に亘り煩雑な申請手続きを着実に進め、平成 25 年 5 月 29 日に一般社団法人格を取得した。その間河川スポーツの普及啓発を目的として、各種水上スポーツへの協賛、自主事業として在阪各大学ボート部 O・B を対象に前述の神崎川レガッタを開催するなど、公益事業に取り組み認可にあたり評価された。

同年 6 月から、松室氏の後任として木本八三郎紫紺会代表相談役が理事長に就任した。新理事長のもとで、日常的な共同艇庫の管理はもとより、公益法人としていかに安全性を確保しながら一般市民にも河川スポーツに親しむ機会を提供し、社会体育の進展に寄与するかといった、今後の公益事業の課題に取り組んでいる。

(10) 近年の漕艇部の戦績・活動状況、今後の展望

平成 20 年以降、部員不足の課題を抱えながらも、復活をかけて研鑽を積んできた。25 年現在で 38 名の部員体制まで整い、同年 4 月・中日本レガッタでの男子エイト 3 位入賞（写真左下）、5 月・朝日レガッタでの女子舵手付クオドルプルでの決勝進出（同右下）など、復活への基礎づくりができてつつある。

同年 11 月の関西学生秋季選手権大会（加古川レガッタ）では、女子シングルスカルの部決勝で 2 年生・領木 暦がラストスパートで逆転し見事優勝した（同右）。領木は 1 年生の秋に入部し、ボートを始めてまだ実質 1 年未満。未経験であっても、その力を発揮できる大学ボート競技の魅力を再認識することができた。次は、関大漕艇部全部員が栄光を掴めるように切磋琢磨していく。

目指せ、東京オリンピック 2020！

今後更なる組織強化策として、26 年度入試において創部以来初となる S F（スポーツ・フロンティア）入試出願へ向けて、本格的なスカウト活動も実施した。

組織一体となって当面の目標である関西選手権制覇、全日本大学選手権決勝進出の早期実現を目指す。



煩惱を越えて・・・桜宮合宿編

合宿生活が基本のボート部員。月曜がオフなので、週末の夜は艇庫で合宿。健全にも 22 時に消灯するが、20 才前後の若い男子は眠れない。桜宮には艇庫から道一本隔てた場所に、川向こうの帝国ホテルとは趣が異なる、艶めかしい電飾を施し、何故かしら男女が伏し目がちに入場するホテル街がある。昭和 20 年代からあるらしい。金曜、土曜ともなると男女の合宿も多いようで、22 時頃からネオンが一つひとつ消え始め、合宿所に差し込む光が徐々に暗くなっていく。怒りにも似た複雑な思いを抱え、俺もいつかは“男爵”の窓から後輩に手を振ってやろうなどと邪念がよぎりつつ、みな眠りにつく。翌朝 5 時に起き出艇した時に見える、朝日に煌く母なる大川の水面と、合戦を終え静寂を取り戻したホテルの光景は、40 代以上の O・B なら必ずや記憶に残っているだろう。



昭和 56 年当時 手前左:大阪市大艇庫
同右:管理棟(桜宮共同合宿所)



創部 90 周年記念式典・祝賀会(平成 25 年 11 月 23 日)



平成 25 年度 1～4 年生



千里山キャンパス



高槻キャンパス

高槻ミュージックキャンパス

堺キャンパス

あとがき

今回の 90 周年記念事業は、10 年後に 100 周年という大きな節目を迎えることから、記念式典は華美を控え規模を広げず“内部充実”に向けた内容とすること、同様に記念誌もパンフレット形式のシンプルなものとするを実行委員会において確認しました。分量が少なくお金もかけられないことから、80 周年記念誌を要約し直近 10 年分の行事をピックアップして、手間暇かけずにできると当初は思っていました。しかし、データベース化された明治・大正時代の年史資料等がキーワード検索でき、卒業アルバム等もコピー感覚でスキニングのうえ画質を落とさず切り貼りできる手軽さも手伝い、思わず時間を忘れて各種資料に見入り、結果として労力をかけることになるのですが、新たな発見を楽しむことができました。その過程において、創部から戦後の復活を経て今日に至る 90 年の関大漕艇部の苦難と栄光の歴史を振り返り、諸先輩方のボートに賭けた情熱に深い感銘を覚えるとともに、改めて自分が関大漕艇部 OB であることを誇りに思うことができました。

なお、各ページ下段にトピック欄を設け、硬軟織り交ぜたエピソードを取り上げておりますが、テーマによってはいささか品位を欠くかもしれません(そういう話題こそユーモアで包むべく推敲を重ねてはおりますが)。それも“青春の 1 ページ”で“ボート部のノリ”であり「アホやなあ」とご寛容いただければ幸いです。

最後になりましたが、本誌編纂にあたり資料提供等ご協力ご支援いただいた皆様に深く感謝いたします。

平成 25 年 12 月 25 日 90 周年記念誌編集委員長 朝井 正貴

参考文献

『創部 70 周年記念誌』『創部 80 周年記念誌』『千里(各号)』関西大学体育会漕艇部、『第 50 回関大漕艇定期戦』パンフレット、『ボートに魅せられ参拾年』上田達三編著、『千里山學報』『學報』『百年史 通史編』『120 年のあゆみ』関西大学、『關大』関西大学校友会、『葦』関西大学教育後援会、『創設 50 周年記念誌』関西大学体育 OB 会、『80 周年記念誌』関西大学応援団、関西大学年史編纂室HP、『神漕 90 年のあゆみ』神戸大学漕艇部、『創部百年の歩み～復活五十年を記念して～』関西学院大学漕艇部、『紅槳』大阪市立大学漕艇部、日本ボート協会HP、『漕艇 75 年』日本漕艇協会

上田達三前顧問著『ボートに魅せられ参拾年』から「強固な幹と知的な枝葉」(抜粋)

ボートは大学スポーツの華、知的スポーツの最たるもの、と私は常々思う。栄光のゴールに向けての、たゆみない過酷なつらい練習、日々新たに考え、挑戦する諸君の精進努力は、人間を幹から大きく逞しく成長させるだけでなく、枝葉にあたる知的な思考視野を広げる試練にもなっているのだ。こんな恵まれた青春の 4 年間とは二度と巡り会えないし、一般学生には、足もとにも及びつかない貴重な、困難に打ち勝つ体験を、諸君は一日一日積み上げているのだ。関西大学体育会漕艇部の一人ひとりに、関西大学漕艇部に魅せられた初老の一熱血漢から、心を込めて贈る。

日々新たに 自己のボートの青春を創造せよ！ 一日生きる 一漕(ひとこぎ)進む！



関西大学体育会漕艇部 戦績・年表

平成 25(2013)年 11 月 23 日

年	月日	大会、出来事	戦 績	関西大学、社会の出来事
明治 19 年 (1886)	11.4			11・関西法律学校として大阪西区の願宗寺で開校
大正 12 年 (1923)		漕艇部設立に向けて活動開始		9・関東大震災 4・関西大学初の女子学生が入学
大正 15 年 昭和元年 (1926)	1.20	漕艇部(当時は端艇部)創部		8・千里山大運動場竣工 10・第 1 回大学祭挙行
	5.9	関西各大学高等専門学校競漕 堂島川	フィックス 2 位	12・大正天皇崩御
	5.23	神戸高商主催端艇競漕 神戸岩屋敏馬ヶ浜	フィックス優勝	
	5.28	同志社大学主催端艇競漕 瀬田川	フィックス優勝	
	10.3	大阪高工学友会主催端艇競漕 淀川	フィックス不明	
昭和 2 年 (1927)		神崎川下流・西淀川区佃島に関西大学艇庫が完成		
	5.8	大阪学生漕艇連盟第 1 回大会 桜宮大川	フィックス 2 位	3・金融恐慌 3・千里山に大学本館竣工
	5.15	関西漕艇倶楽部主催端艇競漕 堂島川	フィックス 2 回戦敗退	6・ジュネーブ海軍軍縮会議
	5.29	神戸高商大会 神戸岩屋敏馬ヶ浜	フィックス優勝	
	6.4	神鐵西管倶楽部大会 場所不明	フィックス優勝	
昭和 3 年 (1928)	4.29	大阪学生漕艇連盟大会 桜宮大川 2000m	フィックス優勝	2・初の普通選挙実施 3・3. 15 事件
	5.13	日本漕艇協会関西支部選手権競漕 場所不明	フィックス優勝	4・千里山に図書館竣工(現簡文館)
	5.18	同志社大学主催端艇競漕 瀬田川	フィックス優勝	11・昭和天皇即位式
	6.1	関西漕艇倶楽部主催端艇競漕 堂島川	フィックス優勝	
	8.26	第 1 回高等専門学校日本選手権競漕 宇治川新コース 1300m	フィックス優勝【日本一】	
昭和 4 年 (1929)	5.5	大阪学生漕艇連盟主催端艇競漕 桜宮新コース	フィックス優勝	2・天六学舎竣工 専門部等福島から移転
	不明	第 2 回高等専門学校日本選手権競漕 関西予選 宇治川新コース	フィックス 準決勝 2 位	10・ニューヨーク株式市場大暴落 世界恐慌始まる
	9.8	関西選手権 宇治川淀コース 2000m	エイト優勝	
昭和 5 年 (1930)	9.29	全日本学生選手権 尾久 2000m	エイト 2 位	
	6.1	関西漕艇倶楽部競漕 堂島川	フォア優勝	4・専門部第 1 部設置
	6.5	同志社大学主催端艇競漕 瀬田川	フィックス優勝	
	7.6	夕刊大阪新聞社主催第 1 回大会 堂島川	エイト優勝	
	9.14	関西選手権 瀬田川 2000m	エイト優勝	
	9.28	全日本学生選手権 瀬田川 2000m	エイト 2 位	
昭和 7 年 (1932)	9.18	関西選手権 瀬田川 2000m	エイト 2 位	1・上海事変 5・5.15 事件 7・大島 鎌吉 がロサンゼルス五輪で銅メダル(三段跳び)
昭和 8 年 (1933)	9.10	関西選手権 瀬田川 2000m	エイト 2 位	12・文学部廃止反対のハンガーストライキ 3・国際連盟脱退
昭和 9 年 (1934)	6.10	関西漕艇倶楽部第 13 回レース 桜宮コース	フォア優勝	
	9.9	関西選手権 瀬田川 2000m	フォア優勝	
	9.21	室戸台風により神崎川艇庫流失		9・室戸台風襲来
	9.23~24	全日本学生選手権 瀬田川 1800m	フォア 2 位	
昭和 10 年 (1935)	9.8	関西選手権 瀬田川 2000m	エイト優勝	2・貴族院で天皇機関説が問題化
	9.23	全日本学生選手権 尾久 2000m	エイト 2 位	12・大阪野球倶楽部(現・阪神 T)結成
昭和 11 年 (1936)	6.1	海軍記念日競漕 堂島川 1000m	エイト 2 位	2・2.26 事件 5・関大創立 50 周年記念式典挙行
	9.5	関西選手権 瀬田川 2000m	エイト予選敗退	11・日独防共協定調印
昭和 12 年 (1937)	7.25	直吉敏次主将が事故死(橋脚衝突により沈没)		7・日中戦争勃発
	9.4	関西選手権 瀬田川 2000m	エイト予選敗退	
昭和 14 年 (1939)	6.1	海軍記念日競漕 堂島川 1000m	エイト 2 位	3・大学の軍事教練必修化 9・第 2 次世界大戦勃発
	8.23	関西選手権 瀬田川 2000m	フォア 2 位	
	9.17	全日本学生選手権 瀬田川 2000m	フォア 2 位	
昭和 15 年 (1940)	6.1	海軍記念日競漕 堂島川 1000m	エイト予選敗退	9・日独伊三国同盟調印 10・大政翼賛会発足
	9.7	関西選手権 瀬田川 2000m	エイト予選敗退	
昭和 16 年 (1941)		学徒勤労動員等により活動縮小		10・修業年限を段階的に短縮 12・太平洋戦争勃発
昭和 18 年 (1943)		学徒出陣を機に休部状態へ		12・学徒出陣開始 学生定員的大幅削減を決定
昭和 20 年 (1945)	8.15			8・広島、長崎に原爆投下 9・第二次世界大戦終結
昭和 21 年 (1946)		西日本予科大会 桜宮	優勝	4・新選挙法による戦後初の総選挙実施
	10.20	琵琶湖レガッタ 瀬田川	2 位	11・日本国憲法公布
	10.25~26	関西選手権	2 位	
昭和 22 年 (1947)	不明	第 1 回朝日レガッタ		3・教育基本法、学校教育法公布
	8.15	大学予科大会	エイト優勝	4・6334 制実施 5・日本国憲法施行
	8.31	国民体育大会	エイト優勝 フォア予選敗退	6・関西大学教育後援会発足
	9.14	関西選手権 瀬田川	フォア 2 位	8・最高裁判所発足
昭和 23 年 (1948)	4.29	第 2 回朝日レガッタ		4・学制改革により新制大学に移行
	7.1	大阪レガッタ 桜宮(天神橋〜鉾流橋)	エイト優勝 フォア予選敗退	8・大韓民国成立 9・朝鮮民主主義共和国成立
	8.22	大阪漕艇大会	エイト優勝 フォア準決勝敗退	11・極東国際軍事裁判判決
	8.1	関西選手権 瀬田川	エイト優勝	4・新制大学に移行 法・文・経・商の 4 学部
昭和 24 年 (1949)	7.23	大阪レガッタ 桜宮(天神橋〜鉾流橋)		10・大学院学舎竣工 11・湯川秀樹 ノーベル 物理学賞
昭和 25 年 (1950)	6.23	大阪レガッタ 桜宮(天神橋〜鉾流橋)		6・朝鮮戦争勃発 9・ジェーン台風襲来
昭和 26 年 (1951)	7.23	大阪レガッタ 桜宮(天神橋〜鉾流橋)		3・学校法人関西大学に改変 9・民間ラジオ放送開始
昭和 28 年	7.23	大阪レガッタ 桜宮(天神橋〜鉾流橋)	エイト 2 位	3・吉田首相バカヤロー事件

年	月日	大会、出来事	戦 績	関西大学、社会の出来事
(1953)		杉原四郎経済学部教授が顧問(部長)就任		8・民間テレビ放送開始
昭和 29 年 (1954)	7.18	大阪市民レガッタ 桜宮(源八橋～桜宮大橋)		7・防衛庁、自衛隊発足、新警察法施行
	9.11～12	全日本選手権 戸田漕艇場	エイト予選敗退	
昭和 30 年 (1955)	7.17	大阪市民レガッタ 桜宮(源八橋～桜宮大橋)		11・関西大学創立 70 周年記念式典挙行
昭和 31 年 (1956)	7.15	大阪市民レガッタ 桜宮(源八橋～桜宮大橋)		10・第 2 グランド竣工 12・国際連合に加盟
昭和 32 年 (1957)	6.2	第 1 回関関戦 桜宮大川 1600m	対校エイト優勝	9・国産ロケット打ち上げ成功
	7.14	大阪市民レガッタ 桜宮(源八橋～桜宮大橋)		
昭和 33 年 (1958)	7.8	大阪市民レガッタ 桜宮(源八橋～桜宮大橋)		3・関門トンネル開通 工学部を設置
昭和 34 年 (1959)	4.5	大阪市民レガッタ 桜宮(源八橋～桜宮大橋)		1・新国民健康保健法 メートル法施行
	10.17～18	第 2 回全日本大学ナックル選手権 佐鳴湖コース	4位	
昭和 35 年 (1960)	5.7～8	第 17 回オリンピックローマ大会 日本代表派遣決定競漕	フォア予選敗退	6・新安保条約成立 9・カラーTV放送開始 9・第 4 学舎竣工し工学部が千里山へ移転
	7.29～31	関西選手権 瀬田川	エイト2位	
	8.20～21	全日本選手権 戸田漕艇場	エイト準決勝3位	
	10.22～23	第 3 回全日本ナックル選手権競漕 相模湖コース	ナックル4位	
	11.13	関西学生漕艇リーグ戦 瀬田川	対校エイト優勝	
昭和 36 年 (1961)	5.4～5	第 14 回朝日レガッタ 琵琶湖漕艇場		
	11.4～5	関西選手権 瀬田川	雨天中止	
昭和 37 年 (1962)	4.28 ～29	第 15 回朝日レガッタ 琵琶湖漕艇場	フォア予選敗退	3・関大誠之館竣工
	6.16～17	第 40 回全日本小艇選手権 戸田漕艇場	シングル3位	8・堀江謙一(関大一高OB)がヨットで太平洋横断
	7.8	大阪市民レガッタ 桜宮(源八橋～桜宮大橋)	ナックル準々決勝3位	
	7.14～15	全日本選手権 戸田漕艇場	エイト準決勝3位	
	8.10～12	関西選手権 瀬田川	対校エイト2位	
昭和 38 年 (1963)	5.11 ～12	第 16 回朝日レガッタ 琵琶湖漕艇場	エイト準決勝2位	3・千里山体育館竣工 11・ケネディー米大統領暗殺
	7.14	大阪市民レガッタ 桜宮(源八橋～桜宮大橋)	エイト2位	
	11.8～10	第 8 回関西学生リーグ戦 桜宮 初代「千里」進水		
昭和 39 年 (1964)	4.18 ～19	第 17 回朝日レガッタ		9・名神高速道路全通 10・東海道新幹線開通
	5.23～24	東京オリンピック代表決定レガッタ 戸田漕艇場	エイト予選敗退	10・第 18 回オリンピック東京大会開催
	7.5	大阪市民レガッタ 桜宮(源八橋～桜宮大橋)	エイト2位	
昭和 40 年 (1965)	4.28 ～29	第 18 回朝日レガッタ 琵琶湖漕艇場	対校エイト3位 フォア予選敗退	2・ベトナム戦争 米軍北爆撃開始
	11.21 ～23	第 15 回関西学生漕艇リーグ戦 瀬田川		10・関西大学会館竣工 11・創立 80 周年記念式典挙行
昭和 41 年 (1966)	7.3	大阪市民レガッタ 桜宮(源八橋～桜宮大橋)	エイト2位	4・中国、文化大革命
昭和 42 年 (1967)	5.3～5	第 16 回関西学生漕艇リーグ戦 瀬田川	エイト優勝	4・社会学部設置 7・ヨーロッパ共同体成立
	7.15～16	第 1 回北米漕艇選手権 戸田漕艇場		
	9.2～3	第 45 回全日本選手権競漕 戸田漕艇場	エイト予選敗退	
昭和 43 年 (1968)	7.27 ～28	関西選手権・瀬田川杯 瀬田浦レークサイドコース	対校エイト予選敗退 Jr エイト予選敗退	4・小笠原諸島返還協定調印
昭和 44 年 (1969)	8.2～3	関西選手権・瀬田川杯 瀬田浦レークサイドコース	対校エイト4位	1・大学紛争激化、東大が44年度入試中止 6・関西大学会館封鎖
	8.30～31	全日本選手権 戸田漕艇場 上田達三社会学部教授が顧問(部長)就任	エイト棄権	7・アポロ 11 号世界初の月面着陸
		所有艇エイト「千里」「北斗」		
昭和 45 年 (1970)	7.25 ～26	関西選手権・瀬田川杯 瀬田浦レークサイドコース	対校エイト予選敗退 Jr エイト予選敗退	3・大阪で万国博覧会開催 4・大阪天六ガス爆発事故発生
	10.11	大阪市民レガッタ桜宮(国鉄鉄橋下～桜宮大橋)	ナックル準決勝2位	12・円切り上げ 1 \$ = 308 円
		慶応義塾大よりエイト「LEIDEN」購入		
昭和 46 年 (1971)	4.28 ～29	第 24 回朝日レガッタ 琵琶湖漕艇場	対校エイト棄権	3・関大電子計算機室開設 6・沖縄返還協定調印
	7.31 ～8.1	関西選手権・瀬田川杯 琵琶湖漕艇場	対校エイト予選敗退 Jr エイト予選敗退	
昭和 47 年 (1972)	4.一	創部以来初の女子マネージャーが入部		2・第 11 回冬季五輪札幌大会開催 5・沖縄復帰、沖縄県発足
	6.10 ～11	第 17 回中日本レガッタ 愛知池	ナックル A 予選敗退 ナックル B 予選敗退	3・考古学研究室が高松塚古墳を発掘調査し、極彩色の壁画を発見
	7.29 ～30	関西選手権・瀬田川杯 琵琶湖漕艇場	対校エイト予選敗退 Jr エイト予選敗退	
昭和 48 年 (1973)	4.28 ～29	第 26 回朝日レガッタ 琵琶湖漕艇場	対校エイト予選敗退	4・ウォーターゲート事件 10・石油ショック
	8.4～5	関西選手権・瀬田川杯 琵琶湖漕艇場	Jr エイト予選敗退	
		所有艇エイト「雷光」「LEIDEN」		
昭和 49 年 (1974)	6.8～9	第 19 回中日本レガッタ 愛知池	対校エイト準決勝8位	3・大学院学舎・岩記念館竣工
	6.23	阪神 6 大学対抗レガッタ	Jr エイト優勝	
	7.21	第 27 回大阪市民レガッタ 浜寺漕艇場	対校エイト2位 Jr エイト3位	
	8.3～4	関西選手権・瀬田川杯 琵琶湖漕艇場	対校エイト予選敗退	
	10.22 ～24	第 3 回関西学生秋季リーグ戦 瀬田川		
	11.2～4	全日本新人選手権 戸田漕艇場	エイト予選敗退	
昭和 50 年 (1975)	4.26 ～27	第 28 回朝日レガッタ 琵琶湖漕艇場	フォア準決勝進出	4・ベトナム戦争終結 5・エリザベス女王来日
	6.7～8	第 20 回中日本レガッタ 愛知池	フォア A 準決勝6位 フォア B 予選敗退	11・関西大学創立 90 周年記念式典挙行 大学・短大の学生総数 200 万人突破
	8.2～3	第 29 回関西選手権・瀬田川杯 琵琶湖漕艇場	対校エイト予選敗退 Jr エイト予選敗退	
		エイト「紫紺」進水		
昭和 51 年 (1976)	5.1～3	第 29 回朝日レガッタ 琵琶湖漕艇場	対校エイト準決勝6位 Jr エイト予選敗退	2・ロッキード事件 4・中国天安門事件
	6.26	関西学生対抗レガッタ	優勝	

年	月日	大会、出来事	戦 績	関西大学、社会の出来事
	～27	旧淀川桜宮コース		
	7.31 ～8.1	関西選手権・瀬田川杯 琵琶湖漕艇場	対校エイト予選敗退 Jr エイト2位	
昭和 52 年 (1977)	5.1～3	女子マナー・ジャー入部 第 30 回朝日レガッタ 琵琶湖漕艇場	対校エイト準決勝5位	5・大学入試センター発足
	6.11～12	第 22 回中日本レガッタ 愛知池	エイト棄権	
	7.30 ～31	関西選手権・瀬田川杯 琵琶湖漕艇場	対校エイト準決勝4位 Jr エイト予選敗退	
	11.19～20	関西学生秋季リーグ戦 瀬田川	ナックル4位	
昭和 53 年 (1978)	5.3～5	第 31 回朝日レガッタ 琵琶湖漕艇場	対校エイト準決勝2位	6・成田新東京空港開港 8・日中友好条約調印
	6.24～25	関西学生対抗レガッタ 桜宮大川	Jr エイト4位	
	6.10～11	第 23 回中日本レガッタ 愛知池	対校エイト準決勝進出	
	7.29～30	関西選手権・瀬田川杯 琵琶湖漕艇場	対校エイト5位 Jr エイト予選敗退	
	11.19	関西学生秋季リーグ戦 瀬田川杯 フォア『カイザー』進水	ナックル3位	
昭和 54 年 (1979)	6.9 ～10	第 24 回中日本レガッタ 愛知池	対校エイト予選敗退	1・国公立大学で共通一次試験開始
	6.23～24	関西選手権・瀬田川杯 琵琶湖漕艇場	対校エイト予選敗退	
	7.28～29	関西学生対抗レガッタ 桜宮大川	Jr エイト予選敗退	
	不明	関西学生秋季リーグ戦 琵琶湖漕艇場	ナックル予選敗退	
昭和 55 年 (1980)	4.20	大阪市民レガッタ 旧淀川桜宮コース	エイト3位 フォア2位	9・イラン・イラク戦争始まる
	5.3～5	第 33 回朝日レガッタ 琵琶湖漕艇場	フォア予選敗退 エイト準決勝4位	
	6.7～8	第 25 回中日本レガッタ 愛知池	エイト予選敗退	
	6.21～22	阪神 9 大学新人ナックルトーナメント	ナックル予選敗退	
	11.23～24	阪神 9 大学ジュニアエイトリーグ戦	Jr エイト3位	
	12.ー	紫紺会実行委員会[大山 剛(昭 45 卒)委員長]発足		
昭和 56 年 (1981)	4.19	大阪市民レガッタ 桜宮大川	対校エイト2位	3・ポートピア 81 開幕
	5.3～5	第 34 回朝日レガッタ 琵琶湖漕艇場	対校エイト準々決勝4位 フォア準決勝5位	
	6.ー	黒津忠夫(昭 39 卒)が監督就任		
	6.27～28	阪神 9 大学レガッタ 桜宮大川	Jr エイト優勝	
	7.25 ～26	関西選手権・瀬田川杯 瀬田漕艇場	対校エイト準決勝3位 Jr エイト優勝	
	11.14 ～15	関西学生秋季リーグ戦 瀬田川	対校エイト2位 Jr エイト3位	
		エイト『千里Ⅱ世』進水		
昭和 57 年 (1982)	4.18	大阪市民レガッタ 桜宮大川(源八橋～川崎橋)	対校エイト優勝 Jr エイト3位	6・東北新幹線開業 11・上越新幹線開業
	5.3～5	第 35 回朝日レガッタ 琵琶湖漕艇場	予選以下試合中止	
	6.26 ～27	関西学生新人レガッタ 桜宮大川	Jr エイト A 優勝 Jr エイト B 4位	
	7.31 ～8.1	関西選手権・瀬田川杯 琵琶湖漕艇場	エイトの部試合中止	
	8.26～28	全日本大学選手権 戸田漕艇場	対校エイト準決勝3位	
	8.27～29	オックスフォード盾レガッタ 戸田漕艇場	Jr エイト予選敗退	
	11.20～21	関西学生漕艇秋季リーグ戦 瀬田川	ナックル4位	
昭和 58 年 (1983)	5.3～5	第 36 回朝日レガッタ 琵琶湖漕艇場	対校エイト4位 Jr エイト予選敗退	6・比例代表制で初の参議院議員選挙
	6.11 ～12	中日本レガッタ 愛知池	対校エイト4位 Jr エイト予選敗退	
	6.25 ～26	関西学生新人レガッタ 阪神 9 大学定期戦 桜宮大川	Jr エイト A 優勝 Jr エイト B 4位ナックル2位	
	7.30 ～31	関西選手権・瀬田川杯 浜寺漕艇場	対校エイト2位 Jr エイト優勝	
	8.20～23	全日本大学選手権 戸田漕艇場	対校エイト準決勝3位	
		オックスフォード盾レガッタ 戸田漕艇場	Jr エイト準決勝3位	
	10.8	創部 60 周年記念式典 大阪コクサイホテル		
	11.19 ～20	関西学生漕艇秋季リーグ戦 瀬田川	対校エイト3位 Jr エイト2位	
		初のカーボン艇エイト『千里Ⅲ世』進水		
昭和 59 年 (1984)	4.22	大阪市民レガッタ 桜宮大川(源八橋～川崎橋)	対校エイト優勝	10・関大総合図書館、情報処理センター竣工
		第 37 回朝日レガッタ 琵琶湖漕艇場	対校エイト2位	
	6.9～10	中日本レガッタ 愛知池	対校エイト4位	
	6.30～7.1	阪神 9 大学定期戦	Jr エイト準決勝進出	
	7.28 ～29	関西選手権・瀬田川杯 琵琶湖漕艇場	対校エイト4位 Jr エイト準決勝進出	
	8.23 ～26	全日本レガッタ、 オックスフォード盾レガッタ 戸田漕艇場	対校エイト準決勝3位 Jr エイト予選敗退	
昭和 60 年 (1985)	4.20～21	大阪市民レガッタ 桜宮大川(源八橋～川崎橋)	対校エイト予選敗退 Jr エイト3位	3・青函トンネル貫通
	5.3～5	第 38 回朝日レガッタ 琵琶湖漕艇場	対校エイト準々決勝4位 Jr エイト準々決勝4位	総合図書館を竣工
	6.8～9	中日本レガッタ 愛知池	対校エイト準決勝7位	
	6.15～16	関西学生新人レガッタ 桜宮大川	Jr エイト優勝	
	7.27～28	関西選手権・瀬田川杯 琵琶湖漕艇場	対校エイト準決勝3位 Jr エイト3位	
	8.22～24	全日本大学選手権 戸田漕艇場	対校エイト予選敗退	
	8.23～25	オックスフォード盾レガッタ 戸田漕艇場	Jr エイト予選敗退	
	11.23～24	関西学生漕艇秋季リーグ戦 瀬田川		
昭和 61 年 (1986)	4.19 ～20	大阪市民レガッタ 桜宮大川	対校エイト優勝 Jr エイト棄権	4・男女雇用機会均等法施行
	5.3～5	第 39 回朝日レガッタ 琵琶湖漕艇場	エイト6位	11・関大創立 100 周年記念式典挙行
	6.14～15	関西学生新人レガッタ 阪神 9 大学戦 桜宮大川	3rd エイト2位	
	6.20～22	第 8 回全日本軽量級選手権 戸田漕艇場	対校エイト準決勝4位	
	7.26～27	関西選手権・瀬田川杯 琵琶湖漕艇場	対校エイト準決勝4位	
	8.22～24	オックスフォード盾レガッタ 戸田漕艇場	Jr エイト予選敗退	
	11.15～16	関西学生漕艇秋季リーグ戦 琵琶湖漕艇場	対校エイト優勝	

年	月日	大会、出来事	戦 績	関西大学、社会の出来事
昭和 62 年 (1987)	4.18 ～19	エイト『紫紺』全損、エイト『千里Ⅴ世』進水 大阪市民レガッタ 桜宮大川	対校エイト2位 Jr エイト3位	4・飛鳥文化研究所・植田記念館新館竣工 4・国鉄分割・民営化、JRグループ発足
	5.3～5	第 40 回朝日レガッタ 琵琶湖漕艇場	対校エイト6位 Jr エイト予選敗退	
	6.6～7	関西学生新人レガッタ 阪神 9 大学戦 桜宮大川		
	6.13～14	中日本レガッタ 愛知池	対校エイト4位	
	7.25 ～26	関西選手権・瀬田川杯 琵琶湖漕艇場	対校エイト2位 Jr エイト A 優勝	
	8.27～30	全日本選手権 オックスフォード盾レガッタ 戸田漕艇場	対校エイト準決勝4位 Jr エイト予選敗退	
	11.21～22	関西学生秋季リーグ戦 琵琶湖漕艇場	対校エイト2位 Jr エイト優勝	
昭和 63 年 (1988)		女子ナックル(ナックル)誕生、千里会発足		
	4.23 ～24	大阪市民レガッタ 桜宮大川	対校エイト2位 Jr エイト3位	4・瀬戸大橋開通 6・リクルート事件
	5.2～5	第 41 回朝日レガッタ 琵琶湖漕艇場	対校エイト準決勝5位 Jr エイト準々決勝	
	6.11～12	第 33 回中日本レガッタ 愛知池	対校エイト4位	
	6.18～19	関西学生新人レガッタ 桜宮大川	A クルー 優勝 B クルー 2位	
	7.23～24	関西選手権・瀬田川杯 琵琶湖漕艇場	対校エイト棄権 Jr エイト2位	
	8.20～21	中部選手権競漕 川辺漕艇場	エイト3位	
	8.25～28	全日本大学選手権 オックスフォード盾レガッタ 戸田漕艇場	対校エイト予選敗退 Jr エイト準決勝3位	
	11.19～20	関西学生漕艇秋季リーグ戦 琵琶湖漕艇場	対校エイト優勝 Jr エイト優勝	
		エイト『WILDROVER』同志社大から購入 エイト『翔舞』大阪府大より購入		
平成元年 (1989)	4.15～16	大阪市民レガッタ 桜宮大川	対校エイト予選敗退 Jr エイト優勝	1・昭和天皇崩御、平成と改元
	5.2～5	第 42 回朝日レガッタ 琵琶湖漕艇場	対校エイト準々決勝 Jr エイト準々決勝	11・関大 100 周年記念会館竣工 4・消費税スタート
	5.9～10	韓国大統領旗争奪全国漕艇大会 漢江五輪コース	対校エイト 4 位	11・ベルリンの壁撤去
	6.10～11	第 34 回中日本レガッタ 愛知池	対校エイト準決勝 3 位	
	6.17～18	関西学生新人レガッタ 桜宮大川	Jr エイト D4 位	
	7.29～30	関西選手権・瀬田川杯 琵琶湖漕艇場	対校エイト準決勝 5 位 Jr エイト A 優勝・B3 位	
	8.25～27	オックスフォード盾レガッタ 戸田漕艇場	エイト予選敗退	
	11.18～19	関西学生秋季リーグ戦 琵琶湖漕艇場	試合中止	
		エイト『WILDROVER』全損 韓国遠征、エイト『千里Ⅵ世』進水		
平成 2 年 (1990)	4.14～15	大阪市民レガッタ 桜宮大川	対校エイト優勝	1・大学入試センター第 1 回試験実施 4・鶴見緑地で国際花と緑の博覧会開催
	5.2～5	第 43 回朝日レガッタ 琵琶湖漕艇場	対校エイト 6 位	
	5.27	花博記念レガッタ 浜寺漕艇場	対校エイト 5 位	
	6.9～10	中日本レガッタ 愛知池	対校エイト 6 位	
	7.28～29	関西選手権・瀬田川杯 琵琶湖漕艇場	対校エイト 3 位・女子ナックル 3 位、Jr エイト準決勝 5 位	
	7.30	新人ナックル戦 琵琶湖漕艇場	女子ナックル 2 位	
	8.23～26	全日本大学選手権 オックスフォード盾レガッタ 戸田漕艇場	対校エイト予選敗退 シェルエイト予選敗退	
	4.13～14	大阪市民レガッタ 桜宮大川	対校エイト 2 位 Jr エイト準決勝 2 位	1・湾岸戦争勃発 3・高槻キャンパス竣工 12・ソビエト連邦消滅
平成 3 年 (1991)	5.2～5	第 44 回朝日レガッタ 琵琶湖漕艇場	対校エイト準決勝 4 位 Jr エイト準決勝 5 位	
	6.7～9	中日本レガッタ 愛知池	対校エイト予選敗退	
	6.15～16	関西学生新人レガッタ 桜宮大川	女子ナックル 2 位	
	7.27～28	関西選手権・瀬田川杯 琵琶湖漕艇場	対校エイト準決勝 4 位 Jr エイト 4 位	
	11.23～24	関西学生秋季リーグ戦 加古川大堰上流	対校エイト準決勝 3 位 Jr エイト A3 位	
	4.18～19	大阪市民レガッタ 桜ノ宮大川	対校エイト予選敗退 Jr エイト準決勝 2 位	3・東海道新幹線「のぞみ」登場
	5.1～2	韓国海軍参謀総長杯	対校エイト 6 位	7・オリンピックバルセロナ大会開催
	5.2～5	第 45 回朝日レガッタ 琵琶湖漕艇場	3rd エイト準々決勝 女子フォア準決勝 5 位	
	5.31	浜寺レガッタ 浜寺漕艇場	女子フォア 2 位	
	6.12～14	中日本レガッタ 愛知池	対校エイト準決勝 5 位	
平成 4 年 (1992)	6.20～21	新人ナックル戦 桜ノ宮大川	女子ナックル A 優勝	
	7.4	瀬田川新人戦 琵琶湖漕艇場	対校エイト準決勝 3 位 Jr エイト準決勝 3 位	
	11.8	関西学生漕艇秋季リーグ戦 加古川大堰上流	対校エイト優勝 女子フォア B2 位	
	11.21	創部 70 周年記念式典 大阪プラザホテル		
	4.17～18	大阪市民レガッタ 桜宮大川	対校エイト除外 女子フォア 2 位	5・リーグ開幕
	5.1～4	第 46 回朝日レガッタ 琵琶湖漕艇場	対校エイト準々決勝 Jr エイト準々決勝	
	6.25～26	関西学生漕艇新人レガッタ 琵琶湖漕艇場	女子ナックル 5 位	
	7.31～8.1	関西選手権・瀬田川杯 琵琶湖漕艇場	対校エイト準決勝 4 位 Jr エイト準決勝 3 位	
	11.6～7	関西学生漕艇秋季リーグ戦 加古川大堰上流	対校エイト準決勝 3 位 女子フォア A 4 位	
		エイト『千里Ⅶ世』、フォア『紫紺Ⅱ世』進水 ビックブレードオール購入		
平成 6 年 (1994)	4.10	(社)関西河川スポーツ振興協会 神崎川艇庫竣工 第 1 回関関市立レガッタ 神崎川 1600m	対校エイト優勝 Jr エイト 2 位	4・総合情報学部(高槻)設置 7・日本女性初宇宙飛行
	4.16～17	大阪市民レガッタ 桜宮大川	エイト 2 位 女子フォア予選敗退	9・関西国際空港開港
	5.1～4	第 47 回朝日レガッタ 琵琶湖漕艇場	エイト準決勝 4 位	
	6.3～5	中日本レガッタ 愛知池	対校エイト決勝 6 位	
	6.4～5	関西学生新人レガッタ	ナックル準決勝 6 位	

年	月日	大会、出来事	戦 績	関西大学、社会の出来事
	6.25	琵琶湖漕艇場 関関戦 神崎川 1300m	女子ナックル決勝6位 対校エイト優勝 Jrエイト準優勝	
	7.30~31	関西選手権・瀬田川杯 琵琶湖漕艇場	エイト2位 女子フォア A 準決勝3位	
	8.25~28	全日本大学選手権 戸田漕艇場	予選敗退	
	11.12~13	関西学生秋季漕艇リーグ戦 加古川大堰上流	エイト準決勝3位 女子フォア準決勝2位	
平成7年 (1995)	1.ー	千里Ⅷ世 進水式		1・阪神・淡路大震災 3・オウム真理教の地下鉄サリン事件
	4.9	第1回桜杯レガッタ 神崎川 1300m	対校エイト優勝 Jrエイト優勝	
	4.15~16	第48回大阪市民レガッタ 桜宮大川 1000m	エイトA 3位	
	5.3~6	第48回朝日レガッタ琵琶湖漕艇場 1000m	試合中止	
	5.28	第16回浜寺レガッタ 浜寺漕艇場	女子フォア A 3位 女子フォア B 2位	
	6.2~4	中日本レガッタ 愛知池 1000m	エイト準決勝5位	
	6.3~4	関西学生新人レガッタ 琵琶湖漕艇場 500m	ナックル A 準決勝3位 女子フォア 4位	
		第38回関関戦 神崎川 1300m	対校エイト優勝 Jrエイト優勝	
	6.24	第43回大阪市立大・神戸大対校競漕大会 桜宮大川 2300m	女子フォア A 3位 女子 Jr フォア 2位	
	7.28~30	関西選手権・瀬田川杯 琵琶湖漕艇場 1500m	エイト準決勝4位 女子フォア準決勝3位	
	11.3~5	関西学生秋季漕艇リーグ戦 加古川大堰上流 1000m	エイト B 5位 女子フォア 5位	
平成8年 (1996)	4.6	第2回桜杯レガッタ 桜宮大川 1500m	対校エイト優勝 Jrエイト優勝	10・大学ホームページの本格運用開始 10・新関西大学会館竣工
	4.20~21	第49回大阪市民レガッタ 桜宮大川 1000m	エイト B 2位 女子フォア 3位	7・アトランタオリンピック 12・原爆ドーム世界遺産登録
	5.3~6	第49回朝日レガッタ 琵琶湖漕艇場 1000m	エイト準決勝6位 女子フォア予選敗退	
	5.31~6.2	中日本レガッタ 愛知池 1000m	エイト3位	
	6.1~2	関西学生漕艇新人レガッタ	ナックル準々決勝AB 3位 女子ナックルA優勝	
	6.29	第39回関関戦 神崎川 1300m	対校エイト2位 Jrフォア 2位	
	6.30	第44回神戸大・大阪市立大対校競漕大会 桜宮大川 2300m	女子対校フォア 2位	
	7.26~28	関西選手権・瀬田川杯 琵琶湖漕艇場 1500m	対校エイト準決勝3位 女子フォア準決勝5位	
	8.24~25	第36回オックスフォード盾レガッタ	対校エイト準決勝3位	
	10.18~20	全日本新人漕艇選手権大会	Jrエイト8位	
	11.2~4	関西学生漕艇秋季リーグ戦 加古川大堰上流 1000m	エイト B 優勝 女子フォア 5位	
平成9年 (1997)	3.28~30	美山村レガッタ 和歌山県美山漕艇場	対校フォア B 4位	7・香港返還 12・東京湾アクアライン開通
	4.5	第3回桜杯レガッタ 桜宮大川	雨天中止	
	4.19~20	第50回大阪市民レガッタ 桜宮大川	3rdエイト3位 女子フォア準決勝2位	
	5.2~5	第50回朝日レガッタ 琵琶湖漕艇場 1000m	対校エイト準々決勝5位 女子フォア準決勝6位	
	5.25	第52回国体大阪府予選会 浜寺漕艇場 1000m	対校フォア 2位	
	5.30~6.1	第42回中日本レガッタ 愛知池 1000m	対校エイト4位	
	5.31~6.1	関西学生漕艇新人レガッタ 琵琶湖漕艇場 500m	ナックル A・B・F 準々決勝 3位 女子ナックル 3位	
	6.12~15	全日本選手権大会 戸田漕艇場 2000m	対校エイト予選敗退	
	6.28	第40回関関戦 神崎川 1300m	対校エイト優勝 Jrエイト 優勝	
	7.6	第3回淀川レガッタ 淀川	試合中止	
		関西選手権・瀬田川杯	試合中止	
	8.21~24	全日本大学選手権大会 戸田漕艇場 2000m	対校エイト準決勝4位 対校フォア予選敗退	
	8.23~24	オックスフォード盾レガッタ 戸田漕艇場 2000m	Jrエイト 7位	
	9.2~6	第3回韓国遠征 美砂里ポートコース		
	10.17~19	全日本新人選手権大会 戸田漕艇場 2000m	Jrエイト予選敗退	
	11.1~3	関西学生漕艇秋季リーグ戦 加古川大堰上流 1000m	対校フォア 2位 Jrエイト 2位	
平成10年 (1998)	4.5	第4回桜杯レガッタ 桜宮大川 1500m	対校エイト 2位 Jrフォア 3位	2・長野オリンピック 4・金融ビッグバンスタート
	4.18~19	第51回大阪市民レガッタ 桜宮大川 800m	3rdエイト 2位 女子フォア 2位	4・明石海峡大橋開通
	5.2~5	第51回朝日レガッタ 琵琶湖漕艇場 1000m	対校エイト 6位 女子フォア準決勝6位	6・サッカー・ワールドカップ(フランス)、日本初出場
	5.30~31	関西学生漕艇新人レガッタ 琵琶湖漕艇場 500m	ナックルAB準々決勝4位 女子ナックルA 6位	
	6.21	関大・神戸・近大女子交流戦 桜宮大川1300m	Jr女子 2位	
	6.27	第41回関関戦 神崎川 1300m	対校エイト優勝 Jrフォア優勝	
	6.28	第53回国体大阪府予選会 浜寺漕艇場 1000m	女子フォア決勝進出	
	7.4	神崎川杯レガッタ 神崎川 1000m	4rdエイト 4位 女子フォア優勝	
	8.15	第53回国体近畿予選大会 琵琶湖漕艇場 1000m	女子フォア 4位	
	8.20~23	全日本大学選手権大会 戸田漕艇場 2000m	対校エイト予選敗退 Jrフォア準決勝3位	
	8.22~23	オックスフォード盾レガッタ 戸田漕艇場 2000m	3rdエイト 8位 4rdエイト準決勝4位	
	10.16 ~ 18	全日本新人選手権大会 戸田漕艇場 2000m	Jrエイト予選敗退	
	10.31 ~ 11.2	関西学生漕艇秋季リーグ 加古川大堰上流 2000m	Jrエイト 3位 女子フォア 5位	
平成11年 (1999)	3.22	上田顧問退職記念感謝の集い リーガロイヤルホテル 矢野秀利社会学部教授が顧問(部長)就任		1・日本最古の貨幣、富本銭の発掘 1・地域振興券配付
	3.28	第5回桜杯レガッタ	対校エイト優勝	

年	月日	大会、出来事	戦 績	関西大学、社会の出来事
		桜宮大川 1500m	対校フォア優勝	
	4.-	千里Ⅱ世、千里Ⅱ世 進水式		
	4.17~18	第52回大阪市民レガッタ 桜宮大川 800m	Jrエイト3位 女子フォア優勝	
	5.2~5	第52回朝日レガッタ 琵琶湖漕艇場 1000m	対校エイト予選敗退 女子フォア準決勝6位	
	5.30	浜寺レガッタ 浜寺漕艇場 1000m	女子Jrフォア優勝	
	6.3~6	全日本選手権大会 戸田漕艇場 2000m	対校エイト予選敗退	
	6.5~6	関西学生漕艇新人レガッタ 琵琶湖漕艇場 500m	男子ナックルA・E準々決勝4位 女子ナックル4位	
	6.26	第42回関関戦 神崎川 1300m	対校エイト優勝 Jrエイト優勝	
	7.4	神崎川杯レガッタ 神崎川1000m	Jrエイト 優勝 女子フォア 2位	
	7.11	あみ定杯レガッタ 瀬田川	Jrエイト5位	
	7.18	女子国体大阪府予選会 浜寺漕艇場	女子フォア準優勝	
	7.30~8.1	関西選手権・瀬田川杯 琵琶湖漕艇場 1500m	エイト予選敗退 女子フォア予選敗退	
	8.15	女子国体近畿予選会 芦屋浜漕艇場 1000m	女子フォア4位	
	8.28~29	オックスフォード盾レガッタ 戸田漕艇場 2000m	JrエイトA準決勝4位	
	10.8~10	全日本新人選手権大会 木曽川三川公園国際ボートコース 2000m	新人エイト予選敗退 女子新人フォア8位	
	10.29 ~ 31	関西学生漕艇秋季リーグ戦 加古川大堰上流 2000m	対校エイト7位 女子フォア5位	
平成12年 (2000)	2.11~20	高麗大学漕艇部来日		7・大学院棟(尚文館)竣工 8・介護保険制度スタート 9・シドニーオリンピック開催
	4.9	第6回桜杯レガッタ 桜宮大川 700m	対校エイト優勝	
	4.15~16	第53回大阪市民レガッタ 桜宮大川 800m	対校フォア優勝 女子フォア 2位	
	5.3~6	第53回朝日レガッタ 琵琶湖漕艇場 1000m	対校エイト6位 フォア準決勝3位	
	6.1~4	全日本選手権大会 戸田漕艇場 2000m	対校エイト予選敗退	
	6.3~4	関西学生漕艇新人レガッタ 琵琶湖漕艇場 500m	ナックルB準決勝3位 女子ナックル3位	
	6.24	第43回関関戦 神崎川 1300m	対校エイト優勝	
	6.25	女子国体予選大阪大会 浜寺漕艇場 1000m	女子フォア	
	7.1~2	神崎川杯レガッタ 神崎川 1000m	フォアA優勝 女子フォア3位	
	7.28~30	関西選手権・瀬田川杯 琵琶湖漕艇場 1300m	対校エイト3位 女子フォア予選敗退	
	7.28~30	瀬田川杯レガッタ 瀬田漕艇場 1300m	Jrエイト2位 3rdエイト3位	
	8.13	女子国体予選近畿大会 浜寺漕艇場 1000m	女子フォア4位	
	8.24~27	全日本大学選手権 戸田漕艇場 2000m	対校エイト予選敗退 女子フォア予選敗退	
	8.26~27	オックスフォード盾レガッタ 戸田漕艇場 2000m	Jrエイト準決勝4位 3rdエイト準決勝3位	
	10.6~8	全日本新人選手権大会 木曽川三川公園国際ボートコース2000m	新人エイト8位	
	11.3~5	関西学生漕艇秋季リーグ戦 加古川大堰上流 2000m	対校フォア3位 女子フォア5位	
平成13年 (2001)	4.8	第7回桜杯レガッタ 桜宮大川 700m	対校エイト2位 女子フォア優勝	9・誠之館7号館(新凱風館)竣工 9・アメリカNY同時多発テロ発生 12・皇太子夫妻の長女・愛子様誕生
	4.15~16	第54回大阪市民レガッタ 桜宮大川 750m	Jrフォア2位 女子フォア3位	
	5.3~6	第54回朝日レガッタ 琵琶湖漕艇場 1000m	対校エイト準決勝5位 女子フォア準決勝4位	
	6.2~3	新人ナックルレガッタ 琵琶湖漕艇場 500m	ナックルAB準々決勝5位 女子ナックル準決勝4位	
	6.23	第44回関関戦 神崎川 1300m	対校エイト優勝	
	7.7~8	神崎川杯レガッタ 神崎川 1000m	対校エイト優勝 女子フォア優勝	
	7.27~29	関西選手権 琵琶湖漕艇場 1000m	女子フォア予選敗退	
	8.5	西日本レガッタ 山口県小野湖 2000m	対校エイト優勝 Jrエイト2位	
	8.23~26	全日本大学選手権大会 戸田漕艇場 2000m	対校エイト予選敗退 女子フォア予選敗退	
	8.25~26	オックスフォード盾レガッタ 戸田漕艇場 2000m	Jrエイト予選敗退	
	10.5~7	全日本新人選手権大会 戸田漕艇場 2000m	新人エイト6位 女子フォア6位	
	11.4~6	関西学生漕艇秋季リーグ戦 加古川大堰上流 2000m	対校フォア予選敗退 女子 フォア予選敗退	
平成14年 (2002)	4.7	第8回桜杯レガッタ 桜宮大川 700m	対校エイト準優勝 女子クォド優勝	1・欧州通貨統一(ユーロ) 5・サッカー・ワールドカップ日韓大会
	4.13~14	第55回大阪市民レガッタ 桜宮大川 750m	対校エイト優勝 女子クォド準優勝	
	5.3~6	第55回朝日レガッタ 琵琶湖漕艇場 1000m	対校エイト準決勝4位 女子クォド予選敗退	
	5.25~26	関西学生ボート選手権新人ナックルの部 琵琶湖漕艇場 500m	ナックルA 3位 女子ナックル準決勝3位	
	6.8~9	関西学生ボート選手権 琵琶湖漕艇場 1000m	対校エイト優勝	
	6.22	第45回関関戦 神崎川 1300m	対校エイト優勝	
	7.6~7	神崎川杯レガッタ 神崎川 1300m	Jrフォア3位 女子クォド優勝	
	7.27~28	関西選手権 琵琶湖漕艇場 1000m	対校エイト予選敗退	
	8.22~25	全日本大学選手権大会 戸田漕艇場 2000m	Jrフォア準決勝4位 女子クォド予選敗退	
	8.24~25	オックスフォード盾レガッタ 戸田漕艇場 2000m	3rdエイト予選敗退	
	10.4~6	第43回全日本新人選手権大会 戸田漕艇場	新人エイト予選敗退 女子新人クォド予選敗退	
	11.2~4	関西学生漕艇秋季リーグ戦 加古川大堰上流	対校フォア予選1位 女子クォド予選1位	
平成15年 (2003)	4.6	第9回桜杯レガッタ 桜宮大川750m	対校エイト準優勝 女子クォド準優勝	3・イラク戦争勃発 7・関西大学東京センター開所 8・沖縄にモノレール(ゆいレール)開通
	4.12~13	第56回大阪市民レガッタ	対校エイト3位	

年	月日	大会、出来事	戦 績	関西大学、社会の出来事
		桜宮大川800m	女子クォド準決勝 2 位	9・阪神タイガース 18 年ぶりセ・リーグ優勝
	5.2～5	第 56 回朝日レガッタ 琵琶湖漕艇場1000m	対校エイト 6 位 Jrフォア準決勝 2 位	
	6.7～8	関西学生新人レガッタ 琵琶湖漕艇場	ナックルA優勝 女子ナックル準々決勝 5 位	
	6.14	第 46 回関関戦 神崎川1300m	対校エイト優勝 女子クォド優勝	
	7.5～6	第 6 回神崎川杯レガッタ 神崎川1300m	Jrエイト優勝 女子クォド 2 位	
	8.2～3	関西選手権・浜寺杯 浜寺漕艇場2000m	対校エイト 3 位 女子クォド4位	
	8.21～24	全日本大学選手権大会 戸田漕艇場2000m	対校エイト予選敗退 女子クォド予選敗退	
	8.23～24	オックスフォード盾レガッタ 戸田漕艇場2000m	Jrエイト予選敗退	
	10.3～5	全日本新人選手権大会 戸田漕艇場 2000m	新人エイト予選敗退	
	10.31 ～	関西学生漕艇秋季リーグ戦	対校フォア 3 位	
	11.1	加古川大堰上流2000m	Jrエイト準優勝	
平成 16 年 (2004)	1.31	創部 80 周年記念式典 リーガロイヤルホテル		
	4.4	第 10 回桜杯レガッタ 桜宮大川750m	対校エイト優勝 女子クォド優勝	4・法科大学院(ロースクール)を設置 8・アテネオリンピック
	4.10～11	第 57 回大阪市民レガッタ 桜宮大川800m	対校エイト優勝 女子クォド優勝	11・新1万円札、5千円札、千円札発行
	5.1～4	第 57 回朝日レガッタ 琵琶湖漕艇場1000m	対校エイト決勝 3 位 女子クォド準決勝 4 位	12・スマトラ沖地震
	6.5～6	関西学生新人レガッタ 琵琶湖漕艇場500m	ナックル予選敗退 女子ナックルB準決勝 4 位	
	6.19	第 47 回関関戦 神崎川1300m	対校エイト優勝 女子クォド準優勝	
	7.10～11	第 7 回神崎川杯レガッタ 神崎川1300m	Jrエイト優勝 女子クォド優勝	
	8.7～8	関西選手権・浜寺杯 浜寺漕艇場2000m	対校エイト優勝 女子クォド準決勝 3 位	
	8.26～29	第 31 回全日本大学選手権大会 戸田漕艇場2000m	対校エイト予選敗退	
	8.28～29	第 44 回オックスフォード盾レガッタ 戸田漕艇場2000m	Jrエイト準決勝 3 位	
	10.29 ～	第 15 回関西学生漕艇秋季選手権 加古川大堰2000m	対校フォア 3 位 女子クォド準決勝 3 位	
平成 17 年 (2005)	4.3	第 11 回桜杯レガッタ 桜宮大川500m	対校エイト優勝 女子クォド 4 位	1・中部国際空港開港 3・愛知万博開催 4・JR福知山線脱線事故
	4.9～10	第 58 回大阪市民レガッタ 桜宮大川800m	対校エイト優勝 女子クォド準優勝	
	5.1～4	第 58 回朝日レガッタ 琵琶湖漕艇場1000m	対校エイト準決勝 4 位 女子クォド準決勝 5 位	
	6.11～12	関西学生新人ナックルレガッタ 琵琶湖漕艇場500m	ナックルC準決勝 5 位 女子ナックルB準決勝 5 位	
	6.18	第 48 回関関戦 神崎川 1300m	対校エイト優勝 女子クォド優勝	
	8.20～21	関西選手権・浜寺杯 浜寺漕艇場2000m	対校エイト 4 位 女子クォド 4 位	
	11.4～6	第 46 回全日本新人選手権大会 戸田漕艇場2000m	新人エイト予選敗退 女子新人クォド 8 位	
	11.18 ～	第 16 回関西学生漕艇秋季選手権 加古川大堰2000m	対校エイト 2 位 女子クォド 2 位	
平成 18 年 (2006)	4.2	第 12 回桜杯レガッタ 桜宮大川750m	対校エイト優勝 女子クォド優勝	2・総合学生会館・凧風館竣工 2・トリノオリンピックで荒川静香金メダル
	4.8～9	第 59 回大阪市民レガッタ 桜宮大川800m	対校エイト予選敗退 女子クォド 2 位	3・WBCで王ジャパン世界 6・サッカーワールドカップドイツ開催
	5.3～6	第 59 回朝日レガッタ 琵琶湖漕艇場1000m	対校エイト準決勝 4 位 女子クォド 5 位	9・秋篠宮夫妻の長男・悠仁様誕生 11・関西大学創立120周年
	6.3～4	関西学生新人ナックルレガッタ 浜寺漕艇場500m	ナックル準決勝敗退 女子ナックルA 3 位	
	6.17	第 49 回関関戦 神崎川1300m	対校エイト優勝 女子クォド優勝	
	7.15～16	関西選手権・浜寺杯 浜寺漕艇場2000m	女子クォド 2 位 女子新人クォド 5 位	
	8.24～27	第 33 回全日本大学選手権大会 戸田漕艇場2000m	女子クォド 7 位	
	10.20 ～	第 47 回全日本新人選手権大会 戸田漕艇場2000m	新人エイト予選敗退 女子新人クォド予選敗退	
	11.3～5	第 17 回関西学生漕艇秋季選手権 加古川大堰2000m	Jrエイト予選敗退 女子クォド 2 位	
平成 19 年 (2007)	4.7～8	第 60 回大阪市民レガッタ 桜宮大川900m	対校エイト予選敗退 女子クォド 2 位	4・政策創造学部を設置 8・74年ぶりに最高気温更新(40.9°)
	5.3～6	第 60 回朝日レガッタ 琵琶湖漕艇場1000m	対校エイト準決勝 3 位 女子クォド 6 位	10・郵政民営化開始
	6.9～10	関西学生新人ナックルレガッタ 浜寺漕艇場500m	ナックルB準決勝 4 位 女子ナックルA 7 位	
	6.30	第 50 回関関戦(50 周年記念大会) 神崎川1300m(懇親会:江坂カーニバルプラザ)	対校エイト 2 位 女子クォド優勝	
	8.4～5	関西選手権・浜寺杯 浜寺漕艇場2000m	Jrエイト優勝 女子クォドA 3 位	
	11.2～4	第 18 回関西学生秋季選手権 加古川大堰2000m	新人エイト 8 位 女子クォド 5 位	
平成 20 年 (2008)	4.5～6	第 61 回大阪市民レガッタ 桜宮大川900m	対校フォア予選敗退 女子クォド 2 位	2・イージス艦衝突事故 7・北海道洞爺湖サミット開催
	5.3～6	第 61 回朝日レガッタ 琵琶湖漕艇場1000m	対校フォア準決勝 5 位 女子クォド予選敗退	8・北京オリンピック開催 8・女子ソフトボール金メダル
	6.14～15	関西学生新人ナックルレガッタ 琵琶湖漕艇場500m	ナックルD 5 位 女子ナックルA 4 位	9・リーマン・ショック
	6.21	第 51 回関関戦 神崎川1300m	対校エイト 2 位 女子クォド 2 位	
	7.20	淀川レガッタ 淀川800m	女子新人クォド 4 位	
	8.2～3	関西選手権・浜寺杯 浜寺漕艇場2000m	対校エイト 5 位 女子クォド準決勝 4 位	
	11.7～9	第 19 回関西学生秋季選手権 加古川大堰2000m	新人エイト 2 位 女子新人クォド 8 位	
平成 21 年	4.4～5	第 62 回大阪市民レガッタ	対校フォア予選敗退	1・オバマ氏、アメリカ大統領に就任

年	月日	大会、出来事	戦 績	関西大学、社会の出来事
(2009)		桜宮大川900m	女子クォド 2 位	4・外国部学部を設置
	5.4～5	第 62 回朝日レガッタ 琵琶湖漕艇場1000m	対校フォア準決勝 4 位 女子クォド準決勝 6 位	5・裁判員制度開始
	6.20	第 52 回関関戦 神崎川1300m	対校エイト 2 位 女子クォド優勝	
	7.4～5	関西選手権・浜寺杯	新人エイト 2 位 女子クォド準決勝 5 位	
	8.20～23	オックスフォード肩レガッタ・全日本選手権大会 戸田オ リンピックコース 2000m	対校エイト 8 位 女子クォド予選敗退	
	10.30 ～ 11.1	第 20 回関西学生秋季選手権 加古川大堰2000m	対校エイト優勝 女子クォド 2 位	
平成 22 年 (2010)		黒津監督退任 北浦 章(昭 63 卒)が監督就任		
	4.10～11	第 63 回大阪市民レガッタ 桜宮大川900m	対校フォア 3 位 女子クォド 3 位	4・人間健康学部(堺キャンパス)、社会安 全学部(高槻ミューズキャンパス)を設置
	5.1～4	第 63 回朝日レガッタ 瀬田川1000m	対校フォア準決勝 3 位 女子クォド予選敗退	2・朝青龍、引退
	6.5～6	関西学生新人ナックルレガッタ 瀬田川500m	ナックルA準決勝 2 位 女子ナックルA 3 位	
	6.19	第 53 回関関戦 神崎川1300m	対校エイト 2 位 女子クォド 1 位	
	7.3～4	関西選手権・浜寺杯	対校フォア 4 位 女子クォド予選敗退	
	11.5～7	第 21 回関西学生秋季選手権 加古川大堰2000m	女子新人クォド 4 位	
平成 23 年 (2011)	4.16～17	第 64 大阪市民レガッタ 桜宮大川900m	対校エイト 3 位	3・東日本大震災 3・九州新幹線全線開通
	4.30～5.1	第 57 回中日本レガッタ 愛知池1000m	対校エイト 6 位	7・FIFA女子ワールドカップ日本代表優勝
	5.1～4	チャリティレガッタ 瀬田川1000m	ダブル準決勝 5 位 女子クォド予選敗退	7・アナログ放送終了 8・なでしこ Japan 国民栄誉賞受賞
	6.5～6	関西学生新人ナックルレガッタ 瀬田川 500m	女子ナックルA 3 位	
	6.18	第 53 回関関戦 神崎川1300m	対校エイト優勝 女子クォド優勝	
	7.2～3	関西選手権・浜寺杯 浜寺漕艇場2000m	対校エイト 6 位 女子クォド 5 位	
	8.25～28	第 38 回全日本大学選手権 戸田オリンピックコース2000m	対校エイト予選敗退 女子クォド予選敗退	
	11.4～6	第 23 回関西学生秋季選手権 加古川大堰2000m	女子新人クォド 4 位	
		漕艇隊(中村有吾(昭 62 卒)隊長)結成		
平成 24 年 (2012)	4.15	第 65 大阪市民レガッタ 桜宮大川900m	対校エイト優勝	5・東京スカイツリー開業 5・金環日食
	5.3～6	第 65 回朝日レガッタ 瀬田川1000m	エイト準決勝 4 位 ダブル準決勝 4 位	7・ロンドンオリンピック 11・吉田沙保里、国民栄誉賞受賞
	6.16	第 54 回関関戦 神崎川1300m 第 1 回紫紺会レガッタ 神崎川300m	対校エイト優勝、女子クォ ド優勝	
	6.30～7.1	関西選手権・浜寺杯 浜寺漕艇場2000m	対校エイト 7 位 女子クォド 4 位	
	8.23～26	第 39 回全日本大学選手権 戸田オリンピックコース2000m	対校エイト予選敗退 女子ダブル準決勝 4 位	
	11.9～11	第 23 回関西学生秋季選手権 加古川大堰2000m	新人エイト 7 位 対校フォア 7 位	
	11.18	第 1 回神崎川レガッタ(関西河川スポーツ振興協会)		
平成 25 年 (2013)	2.2	紫紺会東京支部(中村淳二(昭 63 卒)支部長)発足		
	4.19～21	第 58 回中日本レガッタ 愛知池1000m	対校エイト 3 位	3・WBC 開催 4・富士山世界遺産登録
	4.20～21	第 65 回大阪市民レガッタ 桜宮大川900m	フォア優勝 女子クォド 2 位	7・ウィリアム王子・キャサリン妃に長男誕生
	5.3～5	第 66 回朝日レガッタ 瀬田川1000m	対校エイト準優勝 6 位 女子クォド 6 位	9・2020年夏季オリンピック開催地が東京 に決定
	6.9	第 54 回関関戦 神崎川1300m	対校エイト 2 位 女子クォド優勝	
	7.6～7	関西選手権・浜寺杯 浜寺漕艇場2000m	対校エイト 7 位 新人エイト 2 位	
	8.22～25	第 40 回全日本大学選手権 戸田オリンピックコース2000m	対校フォア準決勝 4 位 女子予選敗退	
	11.1～ 3	第 24 回関西学生秋季選手権 加古川大堰2000m	対校フォア 7 位 女子シングルスカル優勝・4位	

学歌

一 自然の秀麗 人の親和
たぐいなき 此の学園

我等立つ 人生の曙に
燦たる理想 仰ぎつつ

学ぶは一途 純正の
若き心に 讃えなん

関西大学 関西大学

関西大学 長き歴史

二 真理の討究 学の実化

たぐいなき 此の学園

我等有つ 澆漓の精神に

榮ある文化 創るべく

励むは一途 研鑽の

日々を楽しむ 忘れまじ

関西大学 関西大学

関西大学 重き使命

三 自由の尊重 自治の訓練

たぐいなき 此の学園

我等期す 人格の向上に

正義の奉仕 世に為すと

希うは一途 先進の

歩みさだかに 伝えばや

関西大学 関西大学

関西大学 高き権威

逍遥歌

一 嵐劈く鳳の

翼休めし自治の山

緑の香いと高き

千里が丘の春雨に

我等二八の夢に酔う

二 金蘭の花散りて無し

千里が丘に月落ちぬ

眺むる彼方白明に

雁高く鳴きて飛ぶ

嗚呼青春の若き夢

三 浪華の都に華と咲く

名も千陵の丈夫が

葦の葉繁れる淀川に

暫し咲きけん自治の花

自由の曲ぞ今誦しぬ

部歌

一 山は千里の緑が丘に

我等関大育くむ母校

川は大淀流れは清く

我等がクリュー其の名は高し

二 腕は鉄我等が力

倦まず鍛えし覇気をば示し

身には白衣が我等が心

見よや雄々しき正気を示す

三 馳せては早く衆敵空し

熱血湧きぬ真紅と燃えて

夕陽赤く誉れは高し

優勝我等青春正に

山は千里の緑が丘に

我等関大育くむ母校

川は大淀流れは清く

我等がクリュー其の名は尽きじ